もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ
ボンネル
RENOWN
レナウン
レナウン工業株式会社
レナウン商事株式会社
東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

ハンドボール「第18号目次」

表紙写真――

全芝浦工大―フランス戦
池田のジャンプシュート

私の言葉

持ちたい強い根性

近藤祿郎
(新潟県協会会長)

私どもは柏崎市を北陸、信越地方随一のスポーツ・コンビナートにしようと努力しております。雄大な日本海、霊峰米山の近くに公認陸上競技場、野球場、ハンドボール場、プール、庭球場…そして各学校の屋内外運動場の完成。さらにスポーツ会場とユースホステルです。これらを半径五百メートル地につくり、若い人たちのスポーツの「メッカ」にしたいのです。若い人たちに「根性」を植えつけ、正しい社会理念を身につけさせるには「スポーツ」が最適であると確信しております。柏崎に公認グラウンドができたのは大正12年です。しかも民間人の手でつくられたのです。

明治神宮外苑競技場が大正13年にできたことを思えば、先輩諸氏が若い人たちをスポーツで鍛えあげようと血の出るような努力をしたかがわかるのです。アメリカにディラードというハードルの選手がおりました。1948年のロンドン大会前、数年の間、彼は天下無敵で実に七十数回のレースに敗れることなく優勝したのです。ところがロンドンオリンピック派遣の全米予選会でどうしたことか無敗の彼が敗れてしまいました。オリンピック代表にも選ばれない敗方けをしたのです。

しかし幸いにも彼は百メートルに出場を申し込んでいたので、かろうじて3位となり、アメリカ代表の一人となりました。

当時の百メートルはユーエル・バットン(米)とラビーチ(パナマ)が優勝候補でした。ディラードは問題外であったのですが、彼の「根性」は遂に番狂わせを演じ、ユーエルを押えて、彼の専門外の百メートルに堂々と優勝したのです。

嵐の賞賛の声の中で、彼は自分の専門のハードルで優勝できたら…と思ったでしょう。四年後のヘルシンキ大会で、彼は間違いなく、ハードルで見事優勝しました。運、不運を乗り越えた彼のたくましさこそ、若い人たちに植えつけたい「根性」ではないでしょうか。ニチボー貝塚の大松監督はある人の質問に答えて「ニチボーが強いのは、選手がみんな〝もしこの一戦に負けたら、監督さんが悲しむだろう。監督さんを泣かせてはならない…〟というこの一言に尽きるでしょう」と話しております。スポーツは勝たなければならない…。そのためにはなにが必要か。選手になにを教えるのか…。私どもはじゅうぶん考えさせられる問題です。ともあれ柏崎のスポーツ界は、あげてこの問題と取り組み、若い人たちのために、そして先輩の努力をさらに光輝あるものにするために努力を積んでいきたい。誕生して日の浅いハンドボールも、この「根性」をどうしても植えつけなければならないと思っています。

日本・フランス国際親善試合

フランスの6勝4負

来日できなかった女子チーム

フランス・ハンドボールチーム（ステラ・クラブ）は6月17日羽田着のフランス航空機で来日した。当初の計画だと男女両チームの来日だったが、女子チームはフランス青年スポーツ省から許可が出ず、男子チームのみの来日となった。同チームは19日東京における対全芝浦工大との第1戦を皮切りに東京、横浜、名古屋、京都、大阪、下松（山口県）、熊本の各地で日本―フランス国際試合（10試合）を行ない、6勝4敗の成績をあげた。6月24日に予定されていた新潟大会は新潟地震のため中止した。フランスチームは7月19日羽田発のフランス航空機で帰国した。

なおフランス協会のプチ・モンゴベール会長、ピカー理事長、ステラ・クラブのクアレス団長夫妻は7月5日に選手団よりひと足先に帰国した。

全芝浦工大が快勝……

▽第1戦（6月19日、早大記念会堂、観衆三千）

「レフェリー」佐野和夫（教大出）

全芝浦工大 22（11―11, 11―6）17 フランス

（フランス）		得
FP	ブリザール	1
	バンダン	2
	ザゲル	3
	テクシェン	2
	デシャン	2
	コント	4
	プチ	0
	バシュリ	1
	ベルジェール	0
	グイットン	2
	レフェブル	0
GK	パルティー	0
	チボー	0
7MT	3	17

（芝浦）		得
FP	新	3
	住広	5
	森田	3
	池田	4
	近藤	4
	木田	0
	白根	3
	永富	0
	青山	0
	近森	0
	山田	0
GK	谷	0
	渡辺	0
7MT	0	22

「反則退場者」住広、近藤

〔評〕日本は得意の速攻でフランスを圧倒した。コートは44m×22mなので日本に断然有利である。フランスはせまい体育館でのゲームが多く、力のシュートによって得点し、それには技術というものが生かされていない。このゲームにはそれがはっきり証明された。サゲル監督やバンダン選手が「コートが広すぎてやりにくかっ

た。ステラのコートはこれよりもせまいし、広いコートでの経験がないので負けた」と言っているように、スローオフ直後からペースは芝浦のものとなった。3分に池田がシュートして1―0とリードすると、森田もフランス・ディフェンスをうまくかき回して2―0とした。フランスはスピードがなく、多少飛行機の疲れが残っていたのか、動きが全く悪かった。6分巨体のコントが7mスローを決めて2―1と迫ったが、芝浦は多彩な攻撃を見せて20分までに7―3とフランスを引き離した。芝浦のディフェンスは意外に厚く、長身のフランスといえども突破できなかった。芝浦のセット・オフェンスもすばらしく、パスワークもよかった。フランス・ディフェンスは芝浦のスピードを止めるのに精いっぱい。前半芝浦が5点差をつけた。これで勝負は決まったようなもの。

フランスチーム成績

戦		スコア	
第1戦	全芝浦工大	22—17	フランス
第2戦	フランス	16—12	全神奈川
第3戦	千代田印刷機	21—12	フランス
第4戦	全同志社大	14—13	フランス
第5戦	フランス	22—17	全桃山学院大
第6戦	フランス	20—13	全山口
第7戦	フランス	25—17	全九州
第8戦	フランス	26—16	全愛知
第9戦	フランス	26—15	本田技研
第10戦	大崎電気	21—16	フランス

後半になってフランスはやっと調子を出してロングを打ってきた。芝浦の2―4ディフェンスの頭の上からジャンプ・シュート。とくにザゲルの強引なプレーは芝浦も苦戦した。芝浦も住広―新、森田―池田―近藤のコンビネーションがよく、フランスの甘いディフェンスをゆさぶった。後半10分までに17―10とリードした。あとはフランスがどこまで食い下がるかに興味が残った。このあと芝浦は2分間に近藤1点、住広2点を追加して20―10とダブルスコア。フランスは必死になって追い上げてきた。ザゲル、コント、バンダンのラフプレーに芝浦ディフェンスは圧倒されて7点をバン回され、28分には21―17と4点差となった。残り時間は2分。芝浦はタイムアップ寸前に住広のゲットでフランスを振りきった。

フランスがもっとすばらしいプレーを見せるかと大いに期待したが、結果はそれほどでなく、がっかりした。パスワークも、ディフェンスも、動きもすべて芝浦の方がすぐれており、ハンドボールの醍醐味というものはなかった。ただ注目していいのはラフプレーである。日本チームは総体的にラフプレーを避けているが、ヨーロッパはもちろんフランスのプレーは実に荒い。多少のプレーが荒くても笛を吹かず、プレーそのものに影響なければばいいのである。レフェリーの佐野君はじょうずだった。終始動いてボールを追い、無駄な笛は吹かなかった。多少のラフプレーがあっても見過し、ゲームの中断を避けていたのはよかった。日本のレフェリーも佐野君のような動きをしてくれれば、ハンドボールはもっとおもしろくなる。笛を吹かないことがゲームをおもしろくさせるといってもいい。（鴛尾武治＝東京都協会常任理事）

明年西独で女子世界選手権

国際ハンドボール連盟（FIH）の総会は9月19日ブダペスト（ハンガリー）で開き、次のことを決めた。この総会には日本から式場隆三郎会長が出席した。

(1)、バーマン会長は「ハンドボールがオリンピック種目になるよう強力に働きかけ、1972年のオリンピックを目ざしている」と報告。

(2)、新しい加盟国はアルジェリア、ブルガリア、ダホメイ（アフリカ）、マリ（アフリカ）の4カ国である。

(3)、1965年11月に西独で女子7人制世界選手権、1966年にオーストリアで男子11人制世界選手権、1967年にスウェーデンで男子7人制世界選手権を開く。

(4)、次回の総回は1966年にコペンハーゲン（デンマーク）で開く。

(5)、新役員次のとおり。

（会　長）　H・バーマン（スイス）
（副会長）　CH・プチ・モンゴベール（フランス）、G・オーグベル（スウェーデン）
（理事長）　A・ワグナー（スイス）
（理　事）　M・アケルマン（オランダ）ボセク（チエコ）カスペルサン(ノルウェー）オルコ（フィンランド）ペテルセン（デンマーク）マダラ（ハンガリー）ミリウス（東独）M・マルタン（フランス）

全芝浦工大対フランス戦

池田のジャンプシュート

全神奈川善戦及ばず……

▽第2戦（6月20日、横浜文化体育館、観衆二千五百）「レフェリー」岡村昭二（教大出）

フランス 16（9—10 / 7—2）12 全神奈川

全神奈川大対フランス戦

	（フランス）	得
FP	バシュリ	1
FP	バンダン	1
FP	ベルジエール	0
FP	ザゲル	3
FP	グイットン	0
FP	レフェブル	0
FP	テクシェ	3
FP	デシャン	1
FP	コント	7
FP	ブリザール	0
FP	プチ	0
GK	パルティー	0
7MT		0
計		16

	（神奈川）	得
FP	中根	1
FP	安達	7
FP	中	0
FP	村上	3
FP	神田	0
FP	栗城	0
FP	後藤	1
FP	松村	0
FP	中村	0
FP	小林	0
GK	湯原	0
GK	青木	0
7MT		0
計		12

〔評〕大柄な選手で固めるフランスに対し小柄の全神奈川は大いに善戦した。村上、安達、中根を中心にして速攻を展開、前半10—9とリードした。しかし後半は体力にまさるフランスのペースとなってしまった。全神奈川は必死に追い込みをかけたが、シュートミス、コンビの乱れからフランスに逆転された。フランスの速攻は切れが悪かったが、ボールを完全に握り、そしてGKの動きをよく見てシュートしていた。そのシュートはスピード、鋭さがあった。またポストプレーはすばらしく、これを大いに見習う必要がある。（全神奈川チーム・マネジャー、青木茂記＝日本鋼管）

見事な勝利・千代田印刷機……

▽第3戦（6月22日、東京体育館、観衆三千）「レフェリー」中沢重夫（芝浦工大出）

千代田印刷機 21（10—4 / 11—8）12 フランス

	（千代田）	得
FP	青木	10
FP	木田	1
FP	原	0
FP	須田	0
FP	関根	0
FP	安藤	6
FP	西尾	4
FP	宮永	0
GK	永富	0
7MT		4
計		21

	（フランス）	得
FP	バンダン	1
FP	ザゲル	0
FP	テクシェ	2
FP	デシャン	4
FP	コント	3
FP	プチ	0
FP	バシュリ	1
FP	ベルジエール	0
FP	グイットン	0
FP	レフェブル	0
FP	ブリザール	1
GK	パルティー	0
GK	チボー	0
7MT		2
計		12

〔評〕千代田がフランスを堂々と破ったのは実にりっぱである。と同時に驚きである。千代田はことしの四月にチームを結成したばかりで、選手もたった9人である。国際試合というので古賀社長、古賀専務の力の入れ方もまた格別。とくに古賀専務は監督として自分の部下を統率し、いそがしい仕事を割いて練習を積んだ。全社あげての国際試合に力を注いだ。その努力が実を結んだのである。中根、安達などユニバシアードに出場した選手を有する全神奈川でさえ歯が立たなかったフランスを、この千代田が9点差をつけたのは驚きである。エース青木は芝浦工大出。芝浦工大の中沢監督に四年間鍛えられた選手である。1人で10点もあげる大活躍はすばらしいものがあった。安藤（中京商出）、西尾（中京商出）も大いにがんばり、木田（芝浦工大出）、原（室蘭商高

金閣寺に遊ぶフランスチーム

出）、須田（室蘭商高出）もファイトでぶつかり、関根（横浜商高出）、宮永（明星高出）もがんばった。前半は1点を争うシーソーゲームを展開、後半は速攻を見せてフランスの追撃を断ち切った。古賀社長、古賀専務の喜びはどんなに大きかったことだろう。

「女子模範試合」

大崎電気 11（6—2 / 5—3）5 レナウン東京重機

	（レナウン・重機）	得
FP	風岡（レナウン）	3
FP	林（レナウン）	0
FP	川上（レナウン）	0
FP	新山（レナウン）	1
FP	斎藤（レナウン）	0
FP	福岡（重機）	0
FP	能登（重機）	0
FP	山口（重機）	1
FP	山崎（重機）	0
GK	高野（重機）	
7MT		3
計		5

	（大崎）	得
FP	田村	0
FP	笠原	0
FP	鈴木	2
FP	早川	1
FP	宇井	0
FP	永井	1
FP	早乙女	1
FP	黒川	4
FP	深津	2
FP	白石	0
FP	斎藤	0
GK	古谷	0
GK	川崎	0
7MT		0
計		11

全同志社大勝つ……

▽第4戦（6月28日、京都市立体育館）「レフェリー」小西博喜（日体大出）

全同志社大 14（9—4 / 5—9）13 フランス

	（全同大）	得
FP	鳥井	4
FP	斎藤	0
FP	飯田	4
FP	石井	5
FP	林	0
FP	影山	1
FP	川井	0
FP	佐藤	0
FP	磯部	0
FP	江村	0
FP	稲葉	0
GK	奥本	0
GK	林谷	0
7MT		7
計		14

	（フランス）	得
FP	バシュリ	0
FP	バンダン	0
FP	ベルジェール	1
FP	ザゲル	2
FP	グイットン	1
FP	レフェブル	0
FP	テクシェ	1
FP	デシャン	2
FP	コント	3
FP	プチ	3
FP	ブリザール	0
GK	チボー	0
GK	パルティー	0
7MT		10
計		13

フランス対全同志社大戦

〔評〕　フランスは前半3分、テクシェのポストプレーで先行、同大もすかさず右サイドからローリングで飯田が得点した。しかし6分プチが左すみに得点し、再び2—1とリードしてからフランスの攻撃は単調。ただトリックパスでチャンスをねらったが、同大の早い詰めでタイミングがはずれ、ゴールポストに当たる不運もあって得点にならなかった。これに対し同大はゴール前で激しくゆさぶる細かいわざで、8分に鳥井が右サイドから決めて2—2の同点とした。さらに12分影山のポイントで3—2と初めてリードしてからは、左の石井がの逆モーションをついて連続3ゴールをあげた。

また鳥井、林の速攻で5点のリードを奪い、前半に9—4と一気に差をつけた。フランスは後半、力にたよるすごいファイトで反撃してきた。17分バンダン、コントの強引なブロックプレーで加点し、29分まで連続5点をあげ14—13の1点差まで追いあげたが惜しくも及ばなかった。一方同大は前半のリードに気を許し、後半しきりにメンバーチェンジを行なったが、ディフェンスは防戦一方。後半17分からタイムアップまで無得点、かろうじて前半のリードを守って1点差で逃げ切った。フランスが前半にもっと慎重な攻めで多彩な攻撃をみせれば、さらにスケールの大きいゲームになっていただろう。試合は同大が立ち上がりから速攻でフランスのディフェンスを破り、GK奥本の好守、石井を軸とする左サイドの攻撃が功を奏し、前半のリ！ドが最後にものをいった一戦であった。

（主審＝小西博喜）

全桃山学院大　逆転ならず……

▽第5戦（6月30日、大阪府立体育会館）

「レフェリー」村田弘（日体大出）

フランス 22（10—13、12—4）17 全桃山学院大

フランス対全桃山学院大の開会式

得	（桃山）			（フランス）	得
1	中井	FP	FP	バシュリ	0
1	坂本	FP	FP	バンダン	1
7	吉川	FP	FP	ベルジェール	0
2	前田	FP	FP	ザゲル	3
0	五味	FP	FP	グイットン	1
6	大野	FP	FP	レフェブル	0
0	藤林	FP	FP	テクシェン	1
0	井上	FP	FP	デシャン	3
0	吉川	FP	FP	コント	4
0	太田	FP	FP	ブリザール	2
0	水野	GK	GK	プチ	7
0	永富	GK	GK	パリティー	0
17	5	7MT		5	22

「交代選手」北田、友成、大西（桃山）、シコ（フランス）

〔評〕　フランスは前半ポストプレーを有効に生かし、しかも桃山大のお株を奪って速攻を展開した。試合は全くフランスのペースとなり、一方的な試合となってしまった。後半桃山は足を使って積極的に攻め、後半22分中井のシュートでいちじは17—14と3点差まで追いつめたが、余裕あるフランスの攻撃にあって逆転できなかった。桃山大の敗因はフランスのロングシュートを警戒しすぎ、しかもポストをうまく使われたので防ぎ切れなくなった。フランスはディフェンスよりも攻撃のときの方が、身体接触を強くする（ブロックプレー）という積極的な攻撃が成功した。これは実にうまいプレーだった。桃山の大野が6点をあげたのはりっぱ。（村田弘）

全山口も敗れる……………

フランス対全山口

▽第6戦（7月2日、山口県下松市民体育館）

「レフェリー」柳井文治（日体大出）

フランス 20（10—8、10—5）13 全山口

得	（全山口）			（フランス）	得
0	田上	FP	FP	バシュリ	1
5	近森	FP	FP	バンダン	1
0	吉村	FP	FP	ベルジェール	1
0	浜岡	FP	FP	ザゲル	4
1	常田	FP	FP	グイットン	1
0	安沢	FP	FP	レフェブル	0
3	池田	FP	FP	テクシェン	1
1	村岡	FP	FP	デシャン	1
1	番野	FP	FP	コント	4
2	藤山	FP	FP	プチ	6
0	椎木	FP	FP	ブリザール	0
0	白井	FP			
0	山本	GK	GK	パルティー	0
0	浴	GK	GK	チボー	0
13	3	7MT		2	20

〔交代選手〕藤井、桑原、津田、青木、中股、笹西、米富。

〔評〕　フランスは立ち上がりから激しい攻撃を展開し、矢継ぎ早やに4点をあげた。全山口はフランスのロングシュートを警戒しすぎ、逆にポストプレーで得点されてしまった。全山口はコンビが悪く、18分に村岡が得点してやっと2点目をあげたという低調さ。25分8—2と6点がついた全山口は近森のロング、常田の速攻でフランスを追い上げて前半10—5となる。後半になるとフランスはロングを打ち始めて加点し、完全にフランスのペースとなった。全山口は速攻でフランスゴールに殺到したが、フランスのボディ・チェックにつぶされてチャンスをつぶしていた。全山口は体力、走力に欠けていたように思った。

（主審＝柳井文治）

瀬戸内海で遊ぶ

↑フランスチームの合唱（熊本）

フランスが勝つ……

▽第7戦（7月4日、熊本市体育館）「レフェリー」中西敬一（日体大出）

フランス 25（13－11、12－6）17 全九州選抜

得	（フランス）		（九　州）	得
4	バシュリ	FP	三友	2
2	バンダン	FP	沢田	4
1	ベルジェール	FP	井	6
1	ザゲル	FP	津田	2
1	グイットン	FP	元田	0
0	レフェブル	FP	上妻	2
3	テクシェ	FP	米石	0
5	デシャン	FP	緒方	1
4	コント	FP	柿塚	0
4	プチ	FP	松田	0
0	ブリザール	FP	谷脇	0
0	パルティー	GK	島田	0
0	チボー	GK	福田	0
25	0	7MT	0	17

〔評〕試合開始後ミドル・シュートで全九州が先行した。早いモーションから放った井のシュートはフランスGKの意表をついたものであつた。これで全九州の試合運びはいくぶん楽になったように見えたが、フランスはプチをポストに入れ、全九州の目をまどわすようなパスで得点を重ねて1－1となった。このころ全九州の帰陣がおそくなり、フランスは相手のディフェンスの整わないうちにロングシュートとゴールスローからの独走でリード。このあとフランスはパスミスが多くなり速攻も自滅するようになって得点もいちじストップした。この機に全九州は反撃した。三友、沢田が5本のシュートを打ったが、長身のバックスにオーバー・スローシュートで勝負したためカットされて逆転のチャンスを失った。以後全九州のディフェンスに7mスローになる反則が多くなり、フランスの体力に押されて点差が開いた。後半は全九州津田、上妻らがカットインしてディフェンスをくずして得点を重ねた。このあとよく走り、パスもよく通って互角にゲームを進めた。フランスは始め速攻をかけてはパスで自滅する場面が多くもたついたが、前半の点差と体力とに支えられ自信に満ちて試合を運んでいた。（藤田八郎）

熊本城をバックに

光るザゲルの展開力……

▽第8戦（7月12日、名古屋市金山体育館、観衆三千五百）「レフェリー」稲石三二（日体大出）

フランス 26（13－10、13－6）16 全愛知

得	（フランス）		（全　愛　知）		得
1	バンダン	FP	山田	（桜丘会）	6
9	コント	FP	新	（愛知紡）	0
4	ザゲル	FP	川島	（東海電気）	2
4	プチ	FP	小川	（桜丘会）	5
0	ベルジェール	FP	吉田	（中京大）	0
1	グイットン	FP	杉本	（中京大）	2
0	レフェブル	FP	尾之内	（三菱重工）	1
3	テクシェ	FP	深谷	（三菱重工）	0
0	ブリザール	FP	伊藤	（桜丘会）	0
1	バシュリ	FP	小鳥居	（教員ク）	0
3	デシャン	FP	斎藤	（教員ク）	0
0	パルティー	GK	渡辺	（桜丘会）	0
0	チボー	GK	牧	（中京大）	0
26	4	7MT	3		16

「反則退場者」プチ、川島、

〔評〕西独戦、ルーマニア戦、いつも名古屋大会は好勝負である。この日もすべり出しは全く互角。1－1、2－1……と判で押したようにスコアが変わり、5－5まで進んだ。ところが、このあとの約4分にフランスはザゲル（7MT）、テクシェ、ザゲル、プチと立て続けにシュートを決め、13分には9－5と差がついた。これは全愛知のパスワークのわずかな乱れをついて得点に結びつけたもの。チャンスとなると強引なプレーでシュート体勢に持ち込むあたりは、ヨーロッパ流の『力のハンドボール』の片りんを見せたと言ってよいだろう。

全愛知も山田、小川がよく動いた。とくに小川（左腕）のシュートはやすやすとフランスのディフェンスを破った。ところが一つ失点するとフランスは目の色を変えてディフェンスを固め、全愛知はどうしても連続ゲットができなかった。終了後にスコアブックを見ると、全愛知が2点連取したのは前半1回、後半2回だけである。ここらに両チームの差があるのではないだろうか。フランスのプレーには目新しさはなく、攻防両面で粗暴さが見られたが、やはり締めるべきところは締めていたのはさすがである。

ザゲル、プチ、コント、バンダンらの試合のうまさには目を見張らされた。とくにヨーロッパのトッププレーヤーという定評にふさわしく、コントのダイナミックな動きも印象的であった。彼らのつねに戦局を計算に入れた動き、相手の強弱をすぐ見破る正確な判断力はさすがである。この四人に引きづられて若いフランスの選手がたくみにチャンスを生かしていたのに比べ、全愛知は無策にすぎた場面があまりにも多かった。日本のレベル向上がしきりと伝えられる現在だが、日本選手個々の『ハンドボール・センス』はヨーロッパ勢と比べるとものにならぬほど低い。『きょうのチームも動く割りに能率が上がっていなかったよ』。これは試合終了後にコントが語った言葉である。

（杉山茂＝名古屋大会総務）

よくやった本田技研……

▽第9戦（7月14日、東京体育館。観象三千）

「レフェリー」松本重雄（教大出）

フランス 26（14―6 / 12―9）15 本田技研

（フランス）		得
FP	バシュリン	5
	バンダン	0
	ベルジェール	1
	ザゲル	1
	グイットン	2
	レフェブル	2
	テクシェン	4
	デシャン	2
	コント	4
	プチ	2
	ブリザール	2
GK	チボー	0
	パルティー	1
7MT	2	26

（本田）		得
FP	小林	3
	山下	1
	林[illegible]	0
	小川	2
	松岡	1
	水谷	7
	佐藤	1
	谷	0
	中島	0
GK	萩	0
7MT	1	15

〔評〕館内はむし暑かったが、フランスは日本の暑さになれたのかファイト満々だった。1分30秒テクシェが強引なミドルシュートで先行した。本田も2分水谷のアンダーシュートが決まって1―1、4分にも水谷が右サイドから左すみにゲットして2―1。6分には3―3と同点。7分フランスはコントが7MTを決めてからフランスのペースとなった。15分には7―3とフランスがリード。この直後本田は谷が2度も続けて2分間退場を繰り返して反撃機を逸した。フランスはバシュリを中心によく走って前半14―6で終わった。後半本田は速攻を展開したが、前半の失点をバン回できなかった。本田はもっぱらポストプレーをねらったが、それがあまりにも単調すぎ、しかもボールを持ちすぎて動きが悪かった。そこをリーチの長いフランスにカットされて自滅した。フランスはメンバーチェンジを繰り返して体力の消耗を防ぎ、余裕もあった。本田の攻防はちょっと雑であり、チームプレーの基礎がじゅぶんでない。だが本田は持てる力を十二分に発揮し、よくやった。フランスは大量点を取りながら速攻は少しを見せず、スタンディング、ポストで加点するという貧弱さでファンをがっかりさせた。（岡村昭二＝東京都協会常任理事）

本田技研対フランス戦

大崎電気が快勝

▽最終戦（7月15日、東京体育館、観象三千）

「レフェリー」岡村昭二（教大出）

大崎電気 21（5―10 / 16―6）16 フランス

（大崎）		得
FP	田口	1
	高橋	0
	村上	0
	宮原藤	0
	北村	5
	竹野	7
	井上	7
	小谷内	0
	杉山	0
	金田	0
	餅原	1
	小島	0
GK	福本	0
	宮原宏	0
7MT	1	21

（フランス）		得
FP	バシュリン	0
	バンダン	2
	ベルジェール	0
	ザゲル	1
	グイットン	2
	レフェブル	0
	テクシェン	0
	デシャン	5
	コント	3
	プチ	3
	ブリザール	0
GK	チボー	0
	パルティー	0
7MT	2	16

〔評〕最終戦とあって両チームとも大いにハッスルした。前半5分まで両チームとも必要以上の緊張したのか、中央のディフェンスがフェイントプレーにひっかかり、カットインされて得点を許していた。その後フランスはロングシュートが通らないと見て速攻をかけてきたが失敗し、調子をくずしてしまった。一方大崎電気はこれに乗じて速攻を生み、ミドルシュート、フェイントシュートを決めて大差をつけた。後半フランスは大崎電気の疲れをついて速攻、強引なポストプレー、カットインプレーで反撃したが及ばなかった。フランスのザゲル（監督）のボールさばき、コンスのポストプレー、プチのロングシュート、デシャンのカットインプレーはさすがに本場のプレー。だがコンビネーションに欠けるところがあった。これは日本のどのチームにも言えることだが、スタミナの配分をよく考えないとすぐバン回されること。ディフェンスに回ったとき、体格の相異から器用に手を使うけれども、故意な反則をやらないことに注意したい。またボディー・ガードの研究、試合の進め方も一考を要する点があった。

（主審＝岡村昭二）

フランスチームと本田技研

フランス選手に聞く

日本チームの印象

座談会

7人制統一後、初めて迎えたフランラチームの試合ぶりは、現在のヨーロッパ・ハンドボール界の動向を知るうえにも、大いに注目に日本のハンドボールはどう映っただろうか。

ザゲル監督、コント、プチ両選手にいろいろ話を聞いてみた、彼らはいずれもフランスのナショナル・チームの選手であり、ヨーロッパの一流選手たちでもある。聞く人は名古屋中央放送局の杉山茂放送記者（慶大出）。

——日本のハンドボールの総体的な印象は？

ザゲル 「よく動く」の一語に尽きる。第1戦のハーフタイムに、われわれは異句同音に『まるでコマネズミとやっているみたいだ』と話し合ったものだ。

コント その是非はともかくとして、動きにスピードのあることは確かだ。

プチ われわれが今日まで対戦したチームとまるで試合ぶりが違う。第1戦を終わったあとにこのさき日本チームを相手にぶつして攻め、守ってよいものか迷った。

フランスにきた全日本チームを見てよく動くチームだと思ったが、これほどとは考えなかった。

コント しかしあれだけスピーディに動いていると体力をロスするような気がしてならない。

——ムダな動きが多すぎると言うわけか。

ザゲル 「動き」のために力を使いすぎる。そのためにシュートのときの力が落ちてしまっていると思う。

——日本人の現在の体格からいって、ヨーロッパの選手を相手にして対等に戦うためには、動いて得点機をつかむ方法しかないと思うのだが……。

コント われわれが日本のような戦法をとらないのは、体力に恵れているからというだけではない。必要以上に動くことは、なんの意味もないからだ。

プチ ゴール前では、とくにどんな動きにも「意味」がなくてはならない。

——具体的にそれを説明してほしい。

プチ （少し考えてから）つまり、その瞬間、自分がシューターとなるか、チャンスメーカーとなるか判断することだ。

ザゲル 動くことが悪いというのではない。そのコンビネーションは、われわれも大いに見習わなくてはいけないものを持っているし、スピードも申しぶんないと思う。しかしただ動き回っているといった感じの時間が目だつことが多い。

——一つ一つの動きに意味を持たせ、無駄な動きを少なくすることは確かに必要だが、難問題だと思う。どうしたらその欠点をなくせるだろうか。

ザゲル 経験を積む以外にないかもしれない。

コント 日本の選手は総じて若いと思う。だから駆け引きを無視した無駄な動きが乱発されるのだ。

ザゲル どこからでも強いシュートを打てるようになることも、無駄な動きを少なくすることに役だつだろう。強いシュートを打ってこそ、早い動きも生きてくる。

プチ 動きと同じように、日本チームはやたらにシュートを打ち過ぎるのではないか。

コント 同感だ。

ザゲル 打つべきチャンスがわかっていない選手が多い。もっと確実なシュートを打つべきだ。

プチ ジャンプシュートにしても、倒れ込みシュートにしても、テクニックは申しぶんないが、シュートそのものに威力がな

熊本市の歓迎会であいさつするザゲル監督

日・仏・戦・から

▼……フランスは女子チームを同行する予定だったが、同チームは教員が多いため長期休暇をとると授業に支障があるとして、仏スポーツ省が訪日を許可しなかった。

女子チームを代表してアントロアニー嬢が一行の役員として加わったが、どの会場でも人気を集めサイン攻めに合った。同嬢は「日本で試合ができなくて残念。パリにいるみんなもがっかりしてました。来日していちばん驚いたのは各地での歓迎ぶりとむし暑さ。帰国して話をしても、この二つはなかなか信じてもらえそうもありませんわ」と話していた。

▼……陽気な選手たちがそろっているせいか、送迎のバスの中はいつも歌声が聞えた。後半になって彼らの歌で聞きなれたフシがあった。オヤっと思って聞くと、なんとこれが東京五輪音頭。行く先々で聞かされておぼえてしまったのだ。名古屋大会のマスゲーでもこの曲が出るとベンチは大喜び。たちまち口笛と手拍子の大合唱（？）となった。

▼……フランス人の愛情表現がおおっぴらのは有名。一行の監督兼選手ザゲル氏は夫人を同伴。各地でアツアツの場面を見せ、日本側役員を大い

い。

ザゲル　弱い力のシュートでも打つ機会さえよければ得点となる。要は成功度の高いシュートを心がけることが必要なのだ。

——無駄な動きが多いということと、成功度の高いシュートを打てということはわかったが、そのほか気づいたことはないか。

コント　プレーがおとなしすぎると思う。体をぶつけ合うようなプレーが少い。

プチ　国際試合や世界選手権では乱暴とも思えるプレーが展開されている。それを避けることや、対抗するためのプレーの研究が行なわれ、技術が進むことになる。

コント　力と技術をまぜ合わさないと、ヨーロッパのトップチームについて行けない。

——審判員の判定はどうか。

コント・プチ　とくに感想はない。

（注・松本重雄氏＝協会常務理事＝の話によると、日本の判定に対しては来日選手の感想はまちまちで、規則研究や細部の徹底度は日本の方がフランスよりもすぐれているだろうと言うことだった）

——日本の観衆についてはどう感じたか。

サインするアントロアニー嬢（名古屋にて）

コント　百点満点だ。

プチ　ヨーロッパではすぐヤジや口笛が飛ぶが、日本は拍手ばかりでたいへん上品だ。

ザゲル　どこへ行っても気持ちのよい人たちばかりで感謝している。

——フランスと比べて観客の数はどうか。

コント　場所にもよるが、平均してフランスでは日本の5倍は集まるように感じる。

プチ　日本は学生が多いが、フランスでは家族づれもずいぶん見にくる。

——体育館については。

コント　全般にフランスよりも広い。

——フランスと日本の比較を…。

ザゲル　ひとくちには言えないが、ナショナルチームではフランスの方が上だと思う。

——来日チームはフランスでどのくらいにランクされているか。

ザゲル　4年前にフランスの国内選手権をとり、昨年と今年は準優勝だった。3月サンモールの試合で全日本に勝っている。

——〝ステラ・スポーツ〟のハンドボールのメンバーは何人ぐらいいるのか。来日したメンバーはベストメンバーか?。

ザゲル　〝ステラ・スポーツ〟の会員は全部で三百人ぐらい。その大半がハンドボールをしているが、今回は勤務のつごうで第一線選手の中でも来日できなかった者がいる。

——オリンピック・ハンドボールについてどう考えているか。

ザゲル　オリンピックでハンドボールが、もう30年間もはずされているのは全く遺憾なことだ。1968年の大会もメキシコ市になったため、実現されなかった。リヨン（フランス）開催が決まっていればと惜しまれる。

——日本で世界選手権開催の可能性があるだろうか。

ザゲル　ヨーロッパから日本まででくるにはお金がかかりすぎる。その可能性は残念だが少ないと思う。

——世界選手権でフランスは優勝できるか。

ザゲル　ステート・アマチュアや、ミリタリ・アマチュアが多い現在、苦しいと思うが、その実現に一生懸命努力するつもりだ。

高校の韓国遠征中止

日本協会では第3回日韓高校交流として、8月17日から28日まで男女高校の全日本選抜チームを韓国に遠征させる予定だったが、韓国の政情不安定などの理由で中止することになった。

FIH会長を五輪に招待

東京オリンピック組織委員会はオリンピック東京大会の海外特別招待者として、国際ハンドボール連盟会長のハンス・バーマン氏（スイス）を招待した。

オリンピック東京大会の海外特別招待者は同氏をふくめ24人である。

に悩ませた。某氏いわく「あれをベンチでやられたら日本側は全敗だったろうナ。」

▼同行したシャルル・プチ・モンゴベールフランス協会々長は国際ハンドボール連盟（FIH）副会長でもある。所用で7月2日に選手団よりひと足先に帰国したが、レセプションなど機会あるごとに「オリンピック東京大会の種目からはずされたのは遺憾だ」と残念がっていたのが印象的。

▼……女子チームの来日中止で、対戦を予定されていた日本側チームはいずれもがっかりした表情。

国内で女子の国際試合は戦前、戦後を通じて初めてことだけに協会の落胆もひとしお。各会場ではヒノキ舞台で活躍するはずだった女子選手たちが、大会役員となって接待係りなどの裏方に回って働いた。

▼……名古屋の宿舎（名古屋国際ホテル）で、しきりにチボー選手が「驚いた。驚いた」と言っている。なんのことかと思ったらお相撲さん。街で名古屋場所後の力士に会ったらしい。「日本人にも大きなのがいる。あの人たちがハンドボールをやったら、ルーマニアの選手だってかなわないサ」。

特徴あるスナップパス

若崎重富
（神奈川県協会理事長）

フランスチームの個人技術の中で特に目だったものに二つあったと思う。

その一つは、外国選手特有の片手でボールを自由自在に扱うパスフェイントであることはいまさら言うまでもない。そのほかにパスのテクニックに新しい方法を使っていた。その要領は手の中のボールを、ちょうどピンポンのタマを親ゆびと人指ゆびと中ゆびでつまんで押し出すようなパスの方法である。ピンポンのタマより大きなハンドボールのタマを前記要領と手首のスナップで扱っていたことである。キャッチしたその位置からノーモーションパスが使われていた。このパスの特徴はパスが早い。ボールの回転がない。コントロールがよいことである。短距離パスとシュートには効果のある方法だと思った。次はフットワークである。ボクシングの選手がリングの上でつねに行なっているあの足の動きであるい。つでも変化のあるスタートダッシュができる状態にある体勢。フランスの攻撃は前記のようにザゲルのロングシュートと、コントのワンポイントのポストプレーであった。コントのポストプレーは日本国内では問題があるが、世界選手権大会などではじゅうぶんに生きる技術だと思う。

防御は1―5のセットディフェンスを敷いていた。その中心は監督のザゲルが中央で、コントがその前方という布陣である。すべての対策と指示は扇のかなめのポジションにあるザゲルから出ている。ゴールキーパーのチボーとパルティーはチームの年少者で、日本の高校生の年代であるが、非常に動きが小さく、勘のよい選手であった。外人選手には珍しいほど表情を変えない。これが他のプレーヤーに大きな安心感を与えていたようだ。フランスのポイントゲッターはロングヒッターのザゲルとポストプレーのコントの二人であった。ザゲルは31歳、コントは34歳で、この2人の最年長者がほとんど得点をたたき出していた。日本が世界のトップレベルに達するためには、もはや10年選手ではなく、15年、20年のキャリアが必要であることも教えられた。

すごいスタミナ、ファイト

藤田信義
（山口県協会理事長）

山口県における国際親善大会はドイツチーム（31年）、韓国学生選抜（38年）と今回のフランスチームで3回目である。山口国体ハンドボール会場地の下松市で開催できたのは、山中下松市長、近間県協会長、それに同関係者の熱意あるご尽力のたまものである。下松市ではすでに全日本総合選手権、日韓親善大会、西日本大会など数多くの大会を開催しており、したがって市民のハンドボールに対する理解がたいへん深い。今回は下松市民体育館は超満員で、係り員が整理に汗だくであった。

フランスの女子チームの不参加はたいへんな痛手をうけた。本県としては、対等にゲームができるように女子全山口チームを結成して大きな期待を寄せていただけに残念だった。美しいパリジャンのゲームを一目見ようと期待していたハンドボールファンもたくさんいたとか。フランスチームは陽気で朗らかであって紳士であり、ファイトがあり、そして水泳が大好きなチームである。旅館に着くと

日仏戦から

▽…東京高輪の光輪閣で開かれたサヨナラ・パーティーには高松宮ご夫妻がわざわざ出席された。ザゲル監督夫妻はじめ全員はいつとになしに表情が堅くなっていた。そのうちに気がほぐれて高松宮ご夫妻と談笑することしばし。

▽…GKのパリティーは帰国後に18ヵ月間兵役に服すという。あまり日本の印象がよかったのか、「日本で生活したいよ。すばらしい国だもの。フランス航空会社がストでもやればそれだけ長く日本にいられるんだがなー」と冗談を飛ばしていた。（写真は光輪閣での歓迎会（上）とお別れパーティー（下））

私の見たフランスチーム

すぐ前の海（瀬戸内海）を見て大喜び。さっそくユニホームでなくて水泳パンツに着替え、ハンドボールの練習はそっちのけで水泳を楽しみ、魚釣りに興じ、海浜の夕涼みにからだを休める。ゲームの終わった直後も会場隣接の市民プールに飛び込んで、ゲームの疲れをプールで楽しみながらいやしていた。

日本のチームだとゲーム前には絶対に泳がさないところなのだが、しかし彼らはゲームになると全くものすごいファイトとスタミナをもって走りまくった。まず彼らに目を見張ったのは、ボールを完全に握って、スナップでいろいろなパスを行なっていた。体格も日本選手とあまり変わりない比較的小さい選手も、実に器用にボールを扱っている。ハンドボールをは「ボールを握る時代」になったと聞いていたが全く同感である。

しかしゲームそのものは非常に荒く、きたない。国内ゲームでは当然スローや退場になる程度の反則を当たり前のようにやる。欧州がそのようであれば、日本もこんご一考を要することと思う。ゲームの前半はフランスの当たりがあまり強いのに全山口は面くらって、選抜チームの弱点であるコンビネーションの乱れに12—5と差をつけられた。身体的反則はフランス前半15、後半19。これに比べて全山口は前半6、後半8でいかにフランスチームに反則が多いかがおわかりでしょう。速攻も大したことはなかったが、リーチの差によるカット速攻を4回（2点）、スローからの速攻3回（2点）を与えたのは失敗であった。全般的にポストプレーが多く、ブロンジョンシュート10回（5点）。『バックシュートはさすがフランスだ』と観衆も満足していた。とにかく感心するほどのすごみはないにしても、長身を利してボールを握ってふり回す。ロングシュート・モーションにつられて出るとポストから、ポストに注意しすぎるとサイドからという頭脳的プレーは大いに参考となった。超満員の観衆がフランスチームのいろいろなゼスチャーや見事なパスワークに終始緊張したり笑ったりで、時間のたつのもわからないくらいであり、大成功だったと思う。

フランスのザゲル監督は12月上旬に日本遠征のレポートを送ってきた。これは日本協会が特に同監督に依頼したものであり、内容はすばらしいものです。技術的に分析し、貴重な資料です。これは目下ほん訳中で、次号の本誌に掲載します。次号は40年1月15日ごろできます。

強烈な勝利への意欲

藤田八郎（熊本県協会理事長）

熊本大会は女子チームの不参加発表で、県、市からの補助金が大幅に少なくなった。さらに大洋デパートへの期待が大きいものであっただけに、前売り券の返却が出て、大会開催への大きな不安があった。しかし大会開催のときから県協会長、副会長はもちろん、理事10人も各自1万円の寄付を覚悟していたので開催に踏み切った。しかし当日は予想以上の四千の観衆が詰めかけ、熱心に観戦して大成功のうちに大会を終了した。またNHK熊本中央放送局の協力により、県、市民に日・仏大会の妙技をテレビを通じて実況放送してもらった。これは普及に重点をおき、1人でも多くハンドボール競技への関心を高めることに役立ち、まことに有意義で感謝した。

本大会で特筆すべきことは、フラン女子チームのメンバーでただ一人来日したGKのイオランド・アントロアニー嬢が、オープンゲームの大洋デパートの紅白戦のGK心よく承知し、まじめなプレーをみせてくれた。女子不参加の不満をこれで解消してくれたことはよかった。熊本大会でフランスチームの勝利を対する意気込みはものすごいものがあった。7月3日10時に到着後、後援関係者数カ所へのあいさつ以外は一歩も宿舎から出ずに完全な休養。さらに4日の市内観光も中止し、きょうのゲームに全力を尽くすといってゲーム開始1時間半前には会場に到着。早くからアップを始めるなど勝つことに異常なファイトを燃やしていた。フランスチームと5日間行動をともにして特に感じたことは、時間に対して非常に正確に行動をとっていたこと。時間を守ることはスポーツをやる人にとっていちばん大切なことはわかっていても、なかなか守れないものである。この時間に対して行動は学ぶべきところが大きかった。

ザゲル監督から礼手紙がきました。それによると、こんどの日本遠征でいちばん印象に残ったのは熊本と言っておりました。ほんとうによかったと思っています。

深くなった親密感

玉城修（京都府協会理事長）

混雑する夕方の京都駅にトレパン、トレシャツ、草履の軽装で気楽にホームに降りてきたのはフランスの選手たち。これにはびっくりというより非常な腹立たしさを感じた。女子選手突然の来日中止による精神的、経済的ショック。これを国際親善、スポーツマンの美名のもとに気を取り直してせっかく気持ちよく迎えようとしていたのに……。

京都到着の翌日はパリ市の姉妹都市の関係で京都市役所を訪問。陽気な諸君もこの日ばかりは正

装。しかもまじめな顔をしていたのでひと安心。続いて雨の中を市内観光。平安神宮、清水寺と予定どおりのコースを回った。途中のバスの中で全員が合唱して屈託のない表情。ガイドさんも不要。

この日夕刻から関西日仏学館のレセプションに招かれた。館長さんいわく。「フランスの選手の招待ではなく、お世話してくださった貴協会の人と日本の選手の方を招いたのです。これを機会に理解と友好を深めたい」との言葉を聞いて、今回の試合の意味がはっきりしてきた。後日7月14日のパリ祭にも協会役員が招待され、日仏協会関係者間にはさまり、意義ある一時を過ごした。われわれはもっぱら胃袋の日仏親善に役立ったしだいで、フランスに対する親密感が深くなってきた。

次の日は本番のゲーム。ゲームの内容は前宣伝に反し、欧州本場の経験豊かな、そして強肩などは全然見られなかった。他種目の競技専門家に肩身のせまい思いがした。女子の前座試合に同行したアントロアニー選手の特別出場があり、観衆を喜ばせたのがせめてもの慰めてあった。

ゲーム後の協会レセプションでは勝敗にこだわらないなごやかな交歓風景。時間を忘れてのスポーツマンの〝つどい〟は招待した府市関係の方々に好感をあたえた。

以上3日間のフランス選手たちの感じは、自然で素朴な自由の中にある規律。人なつこさ。明朗性といった国民性と生活の中にあるクラブ組織のスポーツの一端が理解できた。〝なぜ、日本協会は最強のチームの招待しなかったのか〟という不満の気持ちもいつの間には消え去った。

◇　◇　◇

〝自由な国〟の選手たち

山田　計
（大阪府協会理事長）

われわれハンドボール愛好者たちにとってフランスチームの来日を非常に期待していた。とくに女子チームの来日は初めてのことであり、男子より一層興味を持っていただけに来日できなかったのは残念であった。大阪大会で初めてフランスチームを見たが、先年来日した西ドイツチームおよびルーマニアチームのことが頭に残っているためか、大阪府立体育会館にはいってきたときは少々驚きを感じさせられた。それはあまりにも自由というか、自動車から降りると選手たちは勝手に話しながら、まるで見物人のようだった。これから親善試合をやるチームとは受けとれなかった。それで第一印象はあまりよく感じなかったが、やはり国民性の違いが出ていると思った。会長、理事長、団長に紹介されたときは、やはりフランス人特有の社交じょうずというのか、柔らかさを受け、非常に話しがしやすかった。試合前フランスチームの監督、審判員、全桃山大学の主将を集め、ルールについ話し合ったが、異っている点がなかった。話し合いのときも、監督はつねに指導的立場にあっておだやかな口調で進めていた。とくに強調していた点は、ゴール前において日本の審判員は次のボールの動きを見ずにいたずらに笛を吹いていることだった。これは大いに注意すべき点である。またフランスチームの控え室に出向き、監督、選手と話し合っていたが、試合前10分ごろ『控え室を出るよう』に言われた。なにごとかと思っていたら、監督は全員を起立させ、非常に強い言葉で選手たちに注意していた。チームに対するときと、各人に対するときをじゅうぶん区別してなにごとも行なう国民であることを再認識させられた。試合にはいっても各人が全力を尽くし、また監督自身も出場していたが、選手交代などスムーズに行なわれていた。やはり外国チームと接する機会を多くし、学ぶ点を多く取り、世界の水準に遅れないようにしなければならない。来日した西ドイツ、ルーマニア、フランスと国民が異れば、その行動や試合の動作が異っていた点などは大いに興味深く思った。

〝自由の中の統制〟には感心

栗脇　嶷
（愛知県協会理事長）

フランスチームを迎えるに当って、『フランスチームはルーズだ。時間に対しては特にひどい。よほど強くいわないとだめだ』などと先輩たちから教えられていた。それで覚悟はしていたが、来名予定の7月11日の土曜日になって『病人が出たので予定を変更して近鉄で名古屋に向かう』とスケジュール変更の連絡を受けたときは全くあわてた。連絡に、準備にといそがしいのに、生きた気もしないほどであった。努力した結果、彼らが到着するまでにはどうやら準備を完了した。外国チームではドイツおよびルーマニアの欧州チームを迎えた経験を持っていたが、フランスチームにはまた格別の期待もあった。

いよいよプラットホームに降り立ったところを見ると、まず色とりどりのスタイルが目についた。心配した時間の点も正確だった。その他の行動も都会人らしく洗練されていた。いよいよ試合に臨んだ彼らの姿や行動は、ユニホームをはじめとしてわれわれ日本チーム、ドイツ、ルーマニアチームと異なることなく、チームとしての統制はとれていた。そしてその後の行動はまた自由。スポーツを愛する和気あいあいの洗練された集団と感じ入った次第。自由の中の統制こそ、真のスポーツ精神と知らされたことであった。

プチ・モンゴベール（フランス協会長 FIH副会長）
対談
小西博喜（京都協会理事）

通訳　ヤコブ・プリユダム神父

数年先が楽しみな日本女子チーム

小西　フランスにおけるハンドボールの人気はどんなものですか。

モンゴベール　ポピュラー・スポーツとしてはいちばん気がある。とくに子供に人気が多い。

小西　来日したチーム（ステラ・クラブ）はフランスでどのくらいの実力があるのですか?。

モンゴベール　つねにベスト4にはいっています。なかなか強いですよ。

小西　選手はどのくらいの年齢までプレーしていますか。

モンゴベール　男子が第一線で活躍しているのは18歳から30歳まででです。女子は男子よりも年齢が高い。それは先生が多いためで、いつでも練習する時間があるからです。ホステス、工場の職員なども1週間に一、二回練習します。まあ練習量は少ないですね。

小西　フランスでハンドボールがいちばん盛んな地方は……。

モンゴベール　パリ郊外のサンモールです。ステラ・クラブはサンモールにあります。

小西　ところでパリ市内にはクラブチームがどのくらいありますか。

モンゴベール　クラブチームは千二百ある。

小西　チームがそんなに多くては、全フランス選手権大会を開くのにたいへんでしょうね。

モンゴベール　まず初めに最近の成績を見て書類選考し、そのうちから24チームを選抜します。ただしこの24チームはかならず体育館を所有していなければならない（いつでも試合ができる体育館を持っているという意味）。もし体育館がいないと、この24チームの中にはいる資格がない。そして次に3ブロックに分けて8チームでトーナメントを行ない、さらに各ブロックの1位チームでリーグ戦をやってチャンピオン・チームを決めるのです。

小西　フランス国内の競技シーズンはどうなっていますか。

モンゴベール　期間は10月から翌年の4月までです。5月15日から9月まではスポーツ大臣の命令で、ハンドボールとラグビーの試合は禁止されています。もしこの間に外国チームが遠征してくると、試合をやるのが礼儀ですから、このときは政府の許可を受けてゲームをやります。

チームはみな体育館を

小西　禁止されている期間は選手はどうしていますか。

モンゴベール　その期間はもっぱら基礎体力をつけるため体操をやっています。

小西　選手達はそれを理解してやっているのですか。

モンゴベール　あまりやっていないようですね。この期間に旅行に出かける人もたくさんいます。

小西　一般の試合はどのようにしていますか。

モンゴベール　試合はほとんど毎週日曜日です。時によっては土曜日の夜やります。

小西　その場合、コートは室内ですか、それとも屋外ですか。

モンゴベール　全部体育館でやることにしています。

小西　こんどの日本遠征で日本チームと対戦した感想を……。

モンゴベール　日本選手は外国選手に比べて背が低く、体格が劣っている。しかしすばやい動きを持っているし、みんな熱心ですね。これには驚きました。

小西　国際的に見てどこの国のチームがいいですか。

モンゴベール　男女ともルーマニアであり、非常に優秀です。数年後には日本の女子が世界のトップクラスにはいると確信しています。日本の女子の将来が実に楽しみです。

小西　その理由は…。

モンゴベール　私はサッカーを30年、ハンドボールを20年の経験を持っている。私が女子の世界選手権で日本チームを見たときにそう感じた。私は絶対の確信を持っているのです。

小西　いまのことを日本の女子選手が聞いたら、大いに張り切るでしょう。ところでフランスでは11人制とはどうなっていますか。

モンゴベール　10年前から7人制一本です。

小西　3月プラハの世界選手権でルーマニア対チェコのゲームを見た感想を。

モンゴベール　観衆の全部がチェコ人であり、ルーマニアの応援はほとんどなかった。（注＝ルーマニアを応援したのは日本チームだけ）。あの大歓声にルーマニアチームは平気だった。若い選手はあの大歓声に精神的にまいってしまうものだが、ルーマニアにはそれがなかった。

小西　来日したフランス選手の調子はいかがですか。

モンゴベール　気候が不順で選手たちはやりにくかったでしょう。でも徐々になれてきています。

小西　どうもありがとうございました。

（顔写真は小西氏）

技術研究室

伸びの運動を忘れるな！みんなで努力しよう！

日本協会常務理事　若崎重富

ハンドボール・からだづくり

世界選手権大会に参加した日本選手団の団長渡辺和美、監督高嶋冽、役員の鷲尾武治氏の三人が、機関紙「ハンドボール」17号の誌上で、世界選手権大会において上位に進出し、日本のハンドボールが現況から脱皮するためには、次のような問題の発達、促進をはからなければならないことを異句同音に強調されている。

(1) からだづくり。
(2) 握力をつける。
(3) シュート力をつける。
(4) 日本人独特のプレー。
(5) 外国選手との交流。

これらの課題の解決をはかるのにはどうしたらよいのか。ハンドボールの全関係者が真剣に考えて、一日も早く、この難題を克服して今後のハンドボールが一大飛躍する機会をつかみたいと念願する。いまここに私見を述べて諸氏のご意見をいただきたい。

からだつくり

この「からだづくり」で要求されている内容は「長身選手の養成」、「鋼鉄のような選手」である。長身選手の問題は日本のスポーツ界が背負っている大きな重荷である。人間のからだのうちで身長は遺伝的な要素が大きいといわれている。従ってこれは日本人の宿命であるのだろうか。しかし戦後の日本人の身長はいちじるしい成長をみせている。この事実から生活環境を変えたり、鍛練のしかたによってはその目的を達成できるのではなかろうか。

長身選手の養成の方法として

(1) **「垂直とび」**を行なう。バスケットやバレーボールの選手といえども初めから長身であったのではなく、つねに伸びの運動を要求されていることが、自然に身長を伸ばしてきたのである。高さの目標を決めておいて、たゆまずに何回も続けて垂直とびを行なうこと。それは少時間でいいから毎日続けることである。

(2) **「生活の改善」をはかる**　日本の居住生活は背を低くさせる生活内容が多い。畳の使用がヒザを曲げさせ、背を丸るめさせている。米の使用がただ満服感を与えて、カロリーやエネルギー源の不足をもたらせている。生活の改善をはかることが身長を伸ばすための一要素である。

(3) **「歩行の姿勢」を矯正する**　一日の生活で歩く時間の占めている割り合いは大きい。昔から日本人は歩き方がヘタであるといわれてきた。過日上田市で行なわれた全国高校選手権大会や高山市で行なわれた全日本総合選手権大会の入場行進を見て、これが現代の高校生の行進かと思い大いにがっかりした。もっとヒザを伸ばし、背すじを伸ばし、目標を高くして歩くこと。これを日々に注意していれば、正しい姿勢で歩けるようになる。これが長身にさせる原因にもなってくる。

鋼鉄のような選手

ここで高嶋氏は「鍛えに鍛え抜いた」と言っている。従って高度な訓練に鍛えた選手を要求しているのである。この基礎的な段階はすでに中学、高校時代に終わっていなければならない。ハンドボールの現状では訓練の時期がやや遅れているのではないか。その原因はいろいろある。これは指導者の信念と情熱、選手の自覚によって解決される。指導者と選手は人間である。互いに心のふれ合いがあったとき、これを阻害するものがあるだろうか。数あるスポーツの中から自己の意志によってハンドボールを選んだものが、もっと自分自身に誠実であってほしい。昨年の夏、ドイツ女性百人が合宿しているのに参加した。彼女たちは11歳から17歳までの年齢であったが、2週間のテント生活をやりながら11人制ハンドボールの指導を受けていた。あの広大なグラウンドを元気に走り回っている姿を見てうらやましくなった。日本でも各地区ごとにこのような合宿訓練を行ない、この訓練に耐えていったものの中からナショナルチームのメンバーの一員となる資格が与えられるようにしたいものだ。

「からだづくり」とは身体的能力と精神的能力との総合力を高めることである。身体的能力の中に身長、体重、胸囲、座高などのように形態的な面と、循環、呼吸、運動などのように機能的な面があり、精神的能力には意志力、判断力、推理力、記憶力、情緒などがある。われわれの運動能力の高低は、かならずしも身体的能力で評価されるものではなくして、精神的能力が大きな影響を与えている。このように考えてくると身体的発達とともに、精神的向上にも相当のウエートをおいて訓練されなければならないといえる。

身体的能力の中で筋力があらゆる運動の直接の働きをなすものである。まず**筋力づくり**をやらなければいけない。筋力を高めるトレーニングの法則は次の三点である。

(1) 毎日一回は必ず行なうことである。
(2) 自分の最大限の努力をして筋力をだす。
(3) 筋力を出している時間は5秒～10秒

の間がよい。

筋力にはバーベルを押し上げるような動的筋力と、抵抗の強い一定の体勢で押し続的筋力がある。ハンドボールの場合は前者がよい。その代表的な方法として「ウエート・トレーニング」がある。ウエート・トレーニングは「からだづくり」や、補強運動として効果をあげている。ウエート・トレーニーグは数回行なった程度ではその効果は期待できない。また負荷の重量が軽くても重過ぎてもいけない。負荷の重量は10回ぐらいを休息しないで繰り返すことができる程度がよい。運動の要領の一例をあげると次のようなものである。

バーベルを用いる運動

(1) 前腕だけを曲げる。

(2) バーベルを両手に持って胸から押し上げる。

(3) バーベルを肩に支持してヒザを深く曲げる。

ダンベルを用いる運動

(1) 直立姿勢でダンベルを横から上に振り上げる。腕を伸ばして上げる。

(2) 直立姿勢でダンベルを両肩の高さに支持する。両手で同時に上方に押し上げ、腕を伸ばす。肩の位置におろす。

用具を持たないで行なう方法

(1) 自分の体重を利用して行なう運動としては腕立て伏せで腕の曲げ伸ばし、からだをそらす。

(2) 二人一組になって相手を背負って、ヒザを曲げ伸ばしたり、運搬する。

(3) 伏せの姿勢で相手を背中に乗せて腕の曲げ伸ばしをする。

このトレーニングで注意しなければならないことは次のようなこと。

(1) トレーニングの前後には必ず準備、整理体操を行なう。

(2) 運動は自分の能力にあった回数を繰り返し、セットの間には必ず休息を入れる。

(3) 正しい呼吸をしながら行なう。

(4) グループをつくって互いに助け合って行なう。

筋力のつぎに要求されることは持久力である。持久力を強化するにはインターバル・トレーニングがいちばんいい。インターバルは一定の強い運動と強い運動の間に、軽い運動をしながら休息を入れて運動を繰り返えす方法である。インターバル・トレーニングにはスピードやペースの持久練習をするショート・インターバル・トレーニングと、持久力をつけるロング・インターバル・トレーニングに分けられる。初心者にはショート・インターバルを行ない、高度の持久力をつけるためにはロング・インターバルを中心に行なうのがいい。もちろんこの両方の組み合わせを適当に考えて行なうことが必要である。

精神能力とはつまり「根生をつくる」ことである。運動を直接行なう身体的機能も精神的能力に支配されている。たとえば走るには「走ろう」とする意志が先に働かなければできない。練習や試合においても実行する強い意志を振い起こさなければできない。この養成は「鍛えに鍛え抜く」訓練以外になにものもないのである。

握力をつける

握力をつけるということは片手でボールを完全に握り、操作することである。これが近代ハンドボールにおいてより強くなるための必要条件である。ボールを片手で握るということは技術ではなく、習性である。小さい時代から訓練して習性にしなければならない。ここにいたる段階とこれからの高度な技術の習得を考えていくと握力の養成は大きな要素を持っている。握力をつけるトレーニングとしては次の方法がある。

(1) 器械器具をつかむものに鉄棒、バーベル、錘りの巻き上げ、ロープの昇り降り。

器械や器具は既成のものでなくても自分でくふうして作るとか、他の物を利用すればよい。われわれの周辺には心がけしだいで、いくらでも良い材料が転がっている。これらの用具の柄は普通のものよりやや太め(直径約5〜6センチ)の方が効果がある。自分の手の大きさ、指の長さを考えて徐々に太くしていくとよい。

(2) 用具を使用しないものに腕立て伏せ、手の握り開き、腕相撲、柔道、剣道、一つのボールを片手で奪い合う。

とくに柔道などは握(あく)をつけることと平行して、受け身の練習もできる。ハンドボールの選手は大いにやった方がよい。握力といっても指や、筋力だけではなく、総合力であるからだ全体の筋力の向上をはかるように心がけなければいけない。

それには毎日少しずつでよいから連続してやって行くことである。なにも特別な道具や設備などなくてもいい。われわれの日常生活の中にいくらでもその機会はある。朝晩のふとんの上げおろし、ほうきを持って庭の掃除、スコップを持ってドブの清掃、まき割などあげればいくらでもある。これらの作業のすべてが、少しでも自分る利益になるのだと考えたら労働も楽しいものである。

シュート力を強化せよ

これも高嶋、鷲尾両氏が指摘しているように手首の強さと、ボール指先きで扱うことが条件である。私が「フランスチームを見て」のところで別記したように、ドイツのコーチが私に指導してくれた手首と指先きで押し出すようなパスやシュートの技術を身につけることである。スタンディングシュートやトリックプレーをやるためには絶対に習得しなければならない。からだの小さな日本人が大きなモーションでシュートするのは確かに不利である。このためにはやはり筋力をつけるほかに解決の道はない。走、跳、投、懸垂、徒手体操、他の球技などいろいろの運動を行なって全身の筋力を強化していかなければいけない。筋力の総合的な養成法としてはサーキット・トレーニングがもっとも効果がある。

× × ×

突然の来日中止で大騒ぎ

楽書帳 17回

鷲尾武治

○…6月にフランスチームが来日した。このチームよりもフランス協会のピカール理事長が来日したのがうれしかった。2月に日本チームがフランスに遠征し、世界選手権終了後もフランスに立ち寄り、このピカール氏にはずいぶんお世話になった。ピカールの奥さんも娘さんも坊やもみんな日本びいき。とくに尾形君がパリ郊外の病院で療養中も、いろいろとお世話してくれた人。羽田から雅叙園観光ホテルへ向かうハイヤーの中でピカール氏は「せがれが私と一緒に日本へ来ようとしてオルリーで飛行機の中にかくれていた。これにはびっくりしたね」と大笑い。プチ・モンゴベール会長は「日本のハンドボールの実情を知るチャンスができてうれしい」といっていた。

○…フランス女子チームが突然来日できなくなった。日本へ来る初めての女子チームということで、開催地も大いに腕をふるっていたのだが…。

女子チームの主力は体育の教師であり、日本遠征には青年スポーツ省の許可が必要なのである。それが許可にならなかった。「教師が長い期間にわたって学校を休むのはケシカラン」というのが真相のようだ。羽田着の二日前になってやっとわかったのが「女子チーム来日せず」。

○…私はたまたまその日早出当番のため、午前9時に出勤した。外国電報を整理していたら「HANDBALL」の電文があった。なんだろうと思って見たらAFP電（フランス通信）で「フランス女子チームの日本遠征は中止」のニュースである。〝ほんとうかな？〟と思ってもういちど電報を読んで見た。どうも間違いはない。〝さあ、タイヘン〟ということで、大崎電気の渡辺社長、高嶋理事長に電話で連絡した。高嶋理事長は寝耳に水。「それ、ほんとうか。フランスからはなにも言ってこない」と二度も三度も聞いてくる。相当あわてたらしい。そうだろう。開催地はすべて準備を完了しているのだから…。

近くにいる電々公社の境井君（日本協会理事）に来てもらって私と二人でこの電報を再確認。これで高嶋理事長もやっと納得した。あのあとがまたタイヘン。テンヤワンヤの大騒ぎ。高嶋理事長は48時間不眠不休で開催地と電話で連絡、指示したという。地方協会もタイヘンだったでしょう。ご苦労さんでした。

○…そこへ〝新潟地震〟。6月24日の新潟大会はどうみても開催不能。国内旅行の日程も大幅に変更。日本協会浜田君（理事、立大出）の獅子奮ジンの活躍で日程をあっという間にやり直してやっと間に合った。協会の鈴木嬢も〝理事長心持ち〟の立ち場から大いにがんばった。

時評

強敵中国に負けるな

＝急げ!! チームと選手づくり＝

○…明年、つまり昭和40年はハンドボール界にとっていそがしい年になりそうである。それはなにか。（1）女子の世界選手権大会が西ドイツで開かれる。（2）日本—中国（台湾ではない）交流試合の話が具体的に進み、日本男子チームの中国遠征。（3）西ドイツチームが米国遠征の帰りに日本に立ち寄りたいと表明している。（4）日ソ交流で日本がソ連へ遠征。などである。日本ハンドボール協会が誕生して27年、いまだかってこんなにいそがしいことはなかったろう。『東京オリンピックが終了したら、真っ先に国際試合を促進する。ハンドボール界の力を結集し、第三者の力を借りずにやりとげる』の高嶋理事長は大気炎。大いにやるべしである。〝日本協会に人材なし〟との悪口が流れているが、どうしてどうして。高嶋理事長が中心となってがっちりスクラムを組んでいることがこれではっきりした。ハンドボール界もまんざら捨てたものではない。とにかく三つも四つも大きな事業を抱えることは、たいへんなことである。これをどうさばくか…これは見ものである。高嶋理事長はじめ各都道府県の大きなバックアップがあるから、すべてスムーズに処理されていくことだろう。われわれハンドボール愛好者としては日本協会幹部を信頼しているし。大きな期待をかけている。しっかりたのんまって高嶋さん…。

○…中国との交流試合はアジア地区発表のために非常によいことである。実力は未知数とはいえ、ルーマニアが日本に遠征する途中、中国と試合して、接戦を演じた。ルーマニアは世界NO・1。これを相手に堂々と勝負をいどんだのだから、かなり強力なチームであることは間違いない。もっとも日本もルーマニアが来日した当時よりもレベルが上がっているし、3月の世界選手権大会で前回7位のノルウェーを18—14で破っている。しかし中国と試合をやるからには絶対勝たなければならない。中国に遅れをとるようでは情けない。中国をリードするか、あるいは悪くても互角に戦いたいものである。少なくとも協会首脳部はわれわれが考えている以上のことをやってほしい。もし中国が国際連盟に認められた場合、日本—中国の間で世界選手権大会アジア代表を決める予選があるかもしれない。不幸にして日本が負けたら、世界選手権への出場はダメになってしまう。いまの日本ハンドボール界は世界選手大会で優勝することに大きな望みをかけている。このためには絶対に中国を引き離さなければならない。

第19回国民体育大会

高校は桜台（男）城北（女）が優勝

教員は大阪が2連勝

天皇杯得点 新潟が1位

一般女子の試合から

第19回国民体育大会ハンドボール競技は6月7日から新潟県柏崎市営ハンドボール場などで開かれた。競技は5日間にわたって行なわれ、地元新潟チームが各部門で上位に進出し、番狂わせともいえる総合優勝（天皇杯得点）を遂げた。30チームが参加した教員の部は大阪が会心の試合を続けて2連勝、高校では予想どおり男子は桜台（愛知）、女子は静岡城北が圧倒的な強味をみせて優勝した。

また一般は、男子は世界選手権代表をそろえた大崎電気（埼玉）が段違いの強さで優勝、女子はレナウン東京が初優勝を飾り、大崎電気（埼玉）は準決勝で敗退、またしても〝男女優勝〟は成らなかった。

教員（男子のみ、30チーム）

▽一回戦

GTC（岐阜）25－23 岩手教ク
桜友会（東京）22－21 全愛知教
岡山教員ク 21－9 全富山教員
長野県教員団 35－9 宮城教員
新潟教員 25－15 滋賀教員ク
静岡教員 23－13 全茨城教員
福島教員ク 25－16 群馬教員
兵庫スワロー 34－15 全北海道
大分教員 23－21 神奈川教員ク
京都教員 18－16 大曲教員団(秋田)
福岡教員ク 18－14 香川教員ク

▽二回戦

山口教員ク 35－19 愛媛教員ク
栃木教員選抜 27－16 興東クラブ(奈良)
山梨教員ク 19－14 石川教員
大阪イーグルス 35－12 福島教員ク
桜友会 23－21 長野県教員団
GTC 17－15 岡山教員ク
熊本教職員 35－14 山梨教ク
静岡教員 28－19 京都教員
新潟教員 17－15 福岡教員ク
兵庫スワロー 38－14 大分教員
山口教員ク 28－18 栃木教員選抜

▽準々決勝

大阪イーグルス 16－15 兵庫スワロー
山口教員ク 21－14 GTC
熊本教職員 30－15 静岡教員
新潟教員 32－25 桜友会

▽準決勝

大阪イーグルス 33（15－6、18－7）13 山口教員ク
熊本教職員 23（16－9、7－9）18 新潟教員

▽三位決定戦

山口教員ク 27（14－8、13－8）16 新潟教員

▽決勝戦

大阪イーグルス 17（8－7、9－6）13 熊本教職員

（熊本）

	選手	得
FP	荒木	0
	元田	3
	津田	3
	板橋	1
	森	1
	階方	0
	沢田	4
	桜田	0
	米石	1
GK	島田	0
	谷腕	0
7MT		1
計		13

（大阪）

	選手	得
FP	望月	0
	山本	0
	丸岡	1
	東	2
	藤井	0
	井上	7
	青木	5
	北岡	1
	加藤	1
GK	光島	0
	島崎	0
7MT		0
計		17

大阪府の優勝は2連勝、2度目（昨年のチーム名は大阪教員団）。

一般男子（10チーム）

▽一回戦

全愛知 25―16 佐野工ク（大阪）

熊本ク 16―14 氷見ク（富山）

▽準々決勝

大崎電気（埼玉） 23（9―7、14―11）18 全愛知

徳山ク（山口） 24（14―6、10―2）8 東北学院ク（宮城）

住友化学菊本（愛媛） 28（12―12、16―5）17 熊本ク

▽準決勝

全新潟 22（11―11、11―4）15 函館サンダーク（北海道）

大崎電気 35（17―9、18―4）13 徳山ク

▽三位決定戦

全新潟 21（7―8、14―9）17 住友化学菊本

徳山ク 17（9―10、8―6）16 住友化学菊本

▽決勝戦

大崎電気 31（14―9、17―7）16 全新潟

（大崎）

	選手	得
FP	田口	1
	宮原	1
	北村	6
	金田	2
	井上	10
	竹野	7
	杉山	1
	餅原	3
GK	福本	0
7MT		1
計		31

（新潟）

	選手	得
FP	宮原	3
	高橋	1
	小島	1
	小谷内	1
	坂野	5
	渡辺	2
	小田	1
	村上	2
	橋崎	0
GK	佐藤	0
	内山	0
7MT		4
計		16

埼玉県は2連勝、2度目（大崎電気としては4連勝、4度目）

高校男子（10チーム）

▽一回戦

明星（東京） 20―13 熊本商（熊本）

新居浜工（愛媛） 20―6 盛岡一（岩手）

▽準々決勝

桜台（愛知） 16（7―6、9―5）11 明星

新居浜工 13（7―8、6―3）11 修道（広島）

堺工（大阪） 23（10―7、13―13）20 上田（長野）

室蘭商（北海道） 14（8―4、6―8）12 柏崎（新潟）

▽準決勝

堺工 13（9―6、4―5）11 新居浜工

桜台 19（13―6、6―2）8 室蘭商

▽三位決定戦

新居浜工 19（10―4、9―2）6 室蘭商

▽決勝戦

桜台 21（11―8、10―0）8 堺工

（桜台）

	選手	得
FP	高鍬	1
	牧野	1
	夫馬	4
	加藤	0
	白神	4
	池田	2
	高橋	7
	松浦	2
	大矢	0
GK	近藤	0
	沢田	0
7MT		0
計		21

（堺工）

	選手	得
FP	山野	0
	芝	1
	区木	1
	土師	2
	宮永	1
	野本	3
	西野	0
	宮本	0
	横山	0
GK	本田	0
	垣内田	0
7MT		1
計		8

天皇・皇后杯得点

▽天皇杯 ①新潟 22 ②大阪 19・5 ③熊本 16・5 ④埼玉、愛媛 16 ⑥愛知、東京 16 ⑧静岡 12・5＝新潟は初優勝

▽皇后杯 ①東京、静岡 10 ③新潟 7・5 ④広島、熊本 7 ⑥茨城、埼玉 6 ⑧愛媛 5

教職員決勝の大阪イーグルス―熊本鉄職員，熊本の（9）沢田がシュートチャンスをねらっているところ

閉会式で式場会長から表彰状を受ける近藤新潟県協会長（柏崎市営グラウンドで）

全岡山 8—2 涌谷高OG（宮城）
全新潟 9—5 高知西高ク

▽準々決勝
熊本大洋デパート 12（6—2 6—4）6 全岡山
全新潟 8（5—4 3—3）7 愛知紡（愛知）
大崎電気（埼玉） 14（5—4 9—2）6 レナウン大阪
レナウン東京 10（4—4 6—3）7 田村紡

▽準決勝
熊本大洋デパート 12（7—2 5—2）4 全新潟
レナウン東京 8（4—4 4—1）5 大崎電気

▽三位決定戦
大崎電気 8（4—1 4—3）4 全新潟

▽決勝戦
レナウン東京 10（6—1 4—1）2 熊本大洋デパート

得000020000000　2
洋）保山尾原村松村　田口原
連隈　0
（大新高枝千中久今　稲山木
FP　GK　7MT
（レナウン）辺田岡本　上山山　沼田
林　1
渡太風竹　川新玉　柿山
得0232300000　10

東京都は初優勝（レナウン東京は初優勝）

高校女子（10チーム）

▽一回戦
明善（福岡） 12—3 有磯（富山）
尼崎（兵庫） 10—3 和洋女（秋田）

▽準々決勝
静岡城北（静岡） 10（5—3 5—1）4 明善
今治明徳（愛媛） 7（1—3 6—3）6 柏崎常盤（新潟）
水海道二（茨城） 18（9—1 9—3）4 室蘭清水丘（北海道）
山陽女子（広島） 8（5—2 3—3）5 尼崎

▽準決勝
静岡城北 14（4—3 10—1）4 今治明徳
山陽女子 8（5—4 3—2）6 水海道二

▽三位決定戦
水海道二 10（4—2 6—5）7 今治明徳

▽決勝戦
静岡城北 10（7—2 3—2）4 山陽女子

得31202200000　10
北）合川山垣田林　田柳山田
堀　5
（城落早杉石松小　太黒奥山
FP　GK　7MT
（山陽）村岡田浦井橋辺治池村本
木今古三浅高渡加藤山金　2
得10020100000　4

静岡県の優勝は7年ぶり2度目（城北高の優勝は7年ぶり2度目）

寂しい愛知紡の衰退

レナウン東京の進出目だつ

連日地元新潟チームの活躍で盛り上がった。

一般男子の大崎電気（埼玉）、高校男子の桜台（愛知）、同女子の静岡城北の強さは文句なし。

注目の一般女子はレナウン東京が2月の全日本実業団優勝ですっかり自信をつけ、落ち着いたプレーで初優勝を飾ったのが注目された。

大洋はクジ運に恵まれて決勝へ進出したものの、主力の欠場で迫力がなかった。愛知紡はやはり今季もカムバックがむずかしそうで、初戦で敗れてしまったのはさびしかった。

大量30チームが登場した教員は、好チームが多いわりに非力なチームも多かった。しかし準々決勝あたりからは、さすがにトッププレーヤーがそろった。

×　×　×

一般女子（12チーム）

▽一回戦
田村紡（三重） 25—7 函館ク（北海道）
レナウン大阪 12—7 富山女高OG

男子高校の試合

国体を見て

光った大崎電気の若手

的場益雄（日本協会常務理事）

一般男子は9地区代表に地元を加え10チームが出場した。昨年度から教職員の部が新しく設けられたため、一般男子が二つに分けられたも同然で、この一般男子の部はなんとなくさびしくなった。その中にあって常勝埼玉(大崎電気)にいま一歩と迫りながら二回戦で退いた愛知（全愛知）の健闘は印象的であった。また三位になった山口（徳山ク）の若いきびきびした試合ぶりも見ていて好感がもてた。それに比べて実業団の花形愛媛（住友化学）が地元新潟（全新潟）に敗れたのは意外であった。最も新潟は、各門大崎電気の分家のようなものであるから致し方なかったのかもしれない。優勝戦は埼玉対新潟であったが、埼玉がゲームの最後まで気をゆるめず完勝したのはさすがである。それとともに竹野、宮原(藤)、北村のベテランに、最近若くて伸びた井上、金田、飾原の技術が断然光っていた。

一般女子は12チームで優勝を争った。特に感ずることは最後は実業団チームが勝ち残ることである。よい指導者と鍛錬のたまものであろう。優勝した東京（レナウン）にたいして三重（田村紡績）は二回戦で合い、10－7と善戦した。実力伯仲の定評のある埼玉(大崎電気)、熊本（大洋デパート）はいずれも東京に押し切られてしまった。これは技術というより作戦勝ちとして東京をほめてよいのかもしれない。

高校は男女ともブロック代表と地元を加え10チームの参加であった。男子のは愛知（桜台）が優勝した。2位の大阪（堺工)、3位の愛媛（新居浜工）、4位の北海道(室蘭商)、それに東京（明星）はそれぞれよい指導者を得て他チームに先んじているが、優勝への道は、いま一歩である。しかしこの一歩は、一に練習、二に練習と鍛えなくてはならない。

女子は静岡（静岡城北）が文句なく優勝した。2位広島（山陽女）の台頭はよろこばしい。3位茨城（水海道第二）、4位愛媛（今治明徳)、それに兵庫（尼崎）福岡(明善）の力はいずれとも甲乙をつけがたく、力は紙ひとえの差がある。これからの成長が楽しみ。

教職員は本年にかぎり30都道府県の出場が認められた。これによって名実ともに府県対抗になった。優勝した大阪（大阪イーグルス）は準々決勝に兵庫の強豪にあい、1点差で辛勝したが、それ以外はいずれも順調だった。とに国際級の井上、東、青木、望月などの多彩プレーが目にとまった。熊本（熊本教員）の2位は予想外の善戦であった。ことに森の好リード、老巧津田の速攻、沢田のシュートがよくきいていた。

来年は高山市で

41年は大分市に決まる

来年（第20回）の国体ハンドボールは岐阜県高山市、41年（第21回）は大分県大分市、42年（第22回）は福井県（開催都市未定）と決まった。

北陸に学生チーム

学生チームの生まれなかった北陸地区で、金沢大学（石川）、富山大学（富山）が活動を始め、すでに昨年度から県大会などで活躍している。全日本学連でも両校をはじめ北信越学生界の充実に努力する意向だが、さしあたり両校を東海学連に統合して新たに中部学連（仮称）を新設するか、両校によって北陸学連を単独結成するか検討中である。

なお東海学連としては、地域的な問題で中部学連結成へと発展するのは研究の余地があるといっている。

三菱鉛筆（女）誕生

40年4月から東京に女子実業チームがまた誕生する。その名は三菱鉛筆チーム。日本協会の高嶋理事長、大崎電気の渡辺社長の努力によるもの。すでに選手も決まり、4月から大会に出場する。

芝浦工大6度目の優勝

第7回全日本学生選手権・広島・

目だつ関西勢奮起と地方勢の進出

第7回全日本学生選手権大会は7月25日から4日間広島市の皆実高球技場（後半は広島県立体育館）に全国から28校（棄権2）が参加して開かれた。

▽一回戦

同志社大 22（10-10、12-11）21 教大
関大 27（14-8、13-6）14 茨城大
中大 27（12-10、15-4）14 立命館大
明大 29（16-5、13-3）8 山口大
甲南大 30（13-6、17-16）22 鹿児島大
京大 18（17-8、11-6）14 慶大
早大 35（24-4、11-7）11 大阪経大
西南学院 26（14-14、12-8）22 大阪大
広島大 27（14-9、13-14）23 東北学院
関学 27（14-8、13-9）17 法大
中京大 不戦勝 近畿大
岡山大 不戦勝 北大

○…同大（関西1位）—教大（関東4位）が好試合だった。教大の挑戦を同大ががっちり組みとめ、制勝したあたりは貫録だったが、実力は互角。教大が勝ってもふしぎはなかつた。

甲南大—鹿児島大も前半はせり合いとなり見ごたえがあった。後半、地力の差が現われたが、鹿大の健闘は賞される。

西南学院大が阪大を破ったのは殊勲。阪大は秋から関西一部に復帰が決まっており、西南学院大にとっては荷の重い相手と見られたが、自信あふれた攻守で押し切ったのは見事だった。

▽二回戦

立教大 34（23-8、11-10）18 中京大
同志社大 21（12-7、9-6）13 関大
中大 27（17-11、10-11）22 明大
広島商大 27（13-10、14-13）23 岡山大
芝浦工大 33（15-8、18-7）15 甲南大
早大 18（8-7、10-10）17 京大
西南学院大 26（15-10、11-8）18 広島大
関学 22（8-12、14-7）19 日体大

○…立大（前年優勝、関東2位）に中京大が前半一歩も引かぬ食い下がりを見せた。しかし後半は試合展開力とスタミナにまさる立大が一方的に走りまくり、最後は大差となった。中京大は東海リーグで独走を続け、せり合いになれていないのが敗因のひとつといえる。前年2位の日体大が関学（関西2位）に敗れた。関学は石田を中心にFWがよく動き、後半の日体大の反撃をかわした。そのほかは順当な結果に終わったが、関東4、関西2、地方勢2というベスト8の内訳けは、学生界のレベルがようやく均等化してきたものとして見ていい。

▽準々決勝

同志社大 22（11-8、11-13）21 立大

立大が敗れた。同大に粘り負けたといってよい。同大が前半2点のハンディを、後半それも終了近くなってからはね返して一気に逆転した。立大は昨年に比べてスケールがひと回り小さくなっており、追い込まれてからはあせりも見え、前半の優位もむなしかった。

広島商大 21（8-12、13-7）19 中大

リードされた中大は後半開始後、猛反撃して試合の主導権を奪ったかに見えたが、広商大も切り札市原へボール集め、前半のリードにものをいわせて中大を突き放した。

芝浦工大 31（20-11、11-8）19 早大

春季リーグで19—14として接戦いるだけに、前半に見せに早大の善戦は後半に興味を残した。しかし地力の差は争えなかった。

関学 38（19-16、19-5）21 西南学院大

前半で勝負が決まった。最後まで試合を捨てなかった西南のマナーは気持ちがよかった。

▽準決勝

同志社大 28（20-9、8-10）19 広島商大

広島商大の宿願は「打倒関西」である。それにはどうしても同大か、関学を食わねばならない。その闘志が立ち上がり1—4と引き離されながら、22分に6—6と追いつき、26分に逆転。2点差をつけて前半を終わった。しかし同大は後半にはいるとすぐタイとし、鳥井を中心とした攻撃陣が左右から巧妙なシュートで再びペースを握った。このあたり同大の試合運びのうまさが、広商大の気力を上回った感じ。広商大が市原だけにゲッターが片よっていたのも戦局を左右した。

芝浦工大 35（19-13、16-6）19 関学

芝浦は関東春の1位、関学は今春西日本学生で優勝。秋の学生王座の前しょう戦ともいえる顔合わせだった。しかし芝浦工大のスピードは関学のそれを完全に上回っていた。短いパスをたくみにつないで関学ディフェンスをくずし、池田、青山らが好シュートを決めた。一方の関学は飯端を中心として攻め込んだものの、パスワークが単調でシュートにも確実味が欠けて自滅した。

▽決勝

芝浦工大 17（11-7、6-8）15 同志社大

	（同大）		（芝浦）	
	林	3	近藤	5
FP	石井	2	白根	0
	斎藤	0	木田	1
	飯田	3	池田	1
	鳥井	6	青山	1
	影山	1	森田	2
	佐藤	0	永富	1
	川井	0	近森	4
	江村	0	山田	2
GK	奥本	0	渡辺	0
7MT		0		5
得		15		17

○…この対戦は王座戦では三回あるが、全日本学生決勝では初めて。また、東西の代表による決勝も7年目にして初めて実現した。体育館（室内）での決勝もこれが最初と、なにもかも〝初めて〟づくし。試合は期待どおりの好試合となり、決勝戦にふさわしかった。まず芝浦は近藤の7MTでリード、これを追って同大は鳥井、影山らが慎重なローリング・オフェンスから好ゲット。芝浦のクイックプレーに対し、同大ディフェンスは研究のあとを見せ、容易に得点を許さず、前半の局面は同大が優勢で2点差がついた。

○…後半芝浦は10分までに2点をあげた。一方の同大は1点を加えただけでじりじりと芝浦に追い上げられた。12分芝浦はを近藤が決めて9―9と追いついた。慎重だった同大オフェンスのコンビが乱れがちとなり、13分シュート失敗から一気に芝浦池田の独走を許して10―9と芝浦がリード。

○…その後、互いにマイ・ボールをうまく得点に結びつけたが、同大は鳥井が芝浦ディフェンスにマークされ、13分に失った1点のバン回がどうにもならない。余裕の出てきた芝浦は終盤になってのびのびとプレーし、27分近森があざやかなカットインプレーで2点差。このプレーで勝負が決まった。

○…芝浦工大はこれで6度目（2年ぶり）の優勝だが、過去の優勝チームよりもそのスケールは小さい。しかし昨年立大に奪われたタイトルを1年で取り返した根性は賞されてよい。

▽三位決定戦

関学 30（14―11 16―10）21 広島商大

○…互いにディフェンスが甘く、乱戦もようだった。広商大のロングシュート多用に引き替え、関学はフォーメーションプレーで加点。試合運びの巧拙がスコアもなった。

総評

やっと身につけた7人制

中沢重夫

年々隆盛の一途をたどるこの大会も7人制に切り替えて二年目、内容も充実してきた。過去の7人制世界選手権、ことに昨年参加した7人制学生世界選手権などから学びとってきた技術も試合勘でも、各チームとも大いに取り入れて身につけた感じ。明年開かれる学生世界選手権にも出場するといわれているだけに、同大会への活躍もいまから期待を寄せれる感を深くした。7人制を日本が採用したのは10年前。以後学生界も着実に歩みを進めてきた。7人のプレーヤーが攻撃防御にコート全面を抜と力でフルに回転するスムーズさも、過去を思いだすと実に大きな進歩をしたものと思える。

さて今回の大会の特徴は東西の力量差が接近したこと。むしろ関西勢が非常に強かったたし、また地方勢のレベルが上がっていたことだ。それだけに広島の梅雨あけの昼の暑さ、夕なぎのむし暑さ。これを克服するべく各チームともずいぶん頭を痛め、コンディションの調整に苦心を重ねたことと思う。それをよく克服し、日ごとに調子をあげ、よく走った芝浦工大が6度目の優勝を飾ったのである。芝浦工大は昨年立教大に6連勝の夢を破られ、ことしは昨年よりレベルが落ちているといわれていただけにそれを盛り返した気力は高く評価できる。この芝浦工大とともに決勝で大接戦を演じた同志社大も、チームの結集力においては芝浦工大にまさるとも劣らぬ見事なものであった。この両者を中心として、関学、立教大、日体大、法大、教大、さらに早大、広島商大、中大もよくやった。今大会はサイドとポストの利用度が非常に高く、速攻とセットプレーをそつなく使っていた。試合中自己のペースを保てること（時間）いかんが勝負の分れ目となっていた。決勝、準決勝はもちろん、関学―法大、関学―日体大、同志社大―教大、同志社大―立教大、広島商大―中大、芝浦―早大などの試合がそれである。また見ごたえのある内容ともいえるかもしれない。それとともに得点に合わせ、失点を少なくするというディフュンスに対しての配慮が大きなウエートをみた。攻防ともに完全にこなせるプレーヤーが必要である。

主なる実業団チーム

（本誌調べ）

【男子】 神工業（北海道）盛岡市役所（岩手）三洋電機（群馬）原子力研究所、日立製作所（以上茨城）大崎電気（埼玉・東京）安田生命、千代田印刷機（以上東京）日進商会、日本鋼管（以上神奈川）日野自動車（静岡）大同製鋼、三菱重工、中部電力、タヨシ産業、豊橋建設、東海製鉄、蒲郡市役所、日本碍子（以上愛知）常盤工業（岐阜）本田技研、日本合成ゴム（以上三重）呉羽自動車（富山）北陸日野自動車（石川）京都市役所（京都）丸善石油、東亜燃料（以上和歌山）丸紅飯田、美津濃、ゼネラル物産、大阪ガス、日東電気、宗形製作所（以上大阪）川崎車輌、日本触媒姫路（以上兵庫）、淀川製鋼呉、呉造船、日新製鋼呉、三菱レーヨン大竹（以上広島）三井石油、帝人岩国、東洋鋼板、出光興産徳山、武田薬品、日立会笠戸、三友商社、三陽パルプ岩国（以上山口）住友化学菊本（愛媛）岡野バルブ（福岡）

【女子】 ロンド工業（茨城）大崎電気（埼玉・東京）レナウン（東京）東京重機（東京・神奈川）揖斐川電工（岐阜）近江絹糸大垣（岐阜）愛知紡（愛知）田村紡（三重）レナウン（大阪）大洋デパート（熊本）

欧州遠征日誌から（上）

フランス

今回の海外遠征は最初西ドイツで強化合宿したあと世界選手権大会に参加、その後フランス、イスラエルに転戦することになっていた。ところが西ドイツから「国内選手権とかち合うので招待はむり」と断わってきた。それで日本協会はすぐスウェーデン、フランス両国に対し、「世界選手権大会前に貴国を訪れたい」と申し入れた。この結果、フランス協会が心よくこれを承知してくれた。2月14日出発を19日延期し、19日22時30分羽田発のフランス航空機でフランスに向かった。フランス協会はCH・ピカール理事長が中心となって日本チームを気持ちよく迎え入れてくれた。フランス協会の厚意には感謝した。ピカール理事長は2月21日から3月1日までフランス国内で4試合のスケジュールを組み、日本チームのために準備してくれた。20日朝9時オルリー空港には予定より1時間早く着き、しばらく空港で休けいした。そのうちピカール理事長が着き、バスでパリのオセアンホテルに旅装を解いた。21日に大西洋岸に近いナント市でフランスでの第1戦。夜9時から始まり17―18と1点差で敗れたが、地元協会は心から歓迎してくれた。城の中にある市長公舎で歓迎レセプションは印象的だった。

第2戦は2月26日モンベリアールでソショー選抜チームと対戦。このチームはクラブチームとしてはNO・1この街は「クルマの街」。プジョー（車の名前）は世界的に有名。国際級の選手が3人もいて、なかなか好感の持てるチームだった。26―23で初の勝利をあげた。ここでも歓迎された。次いで28日ビルフランシュ市で第3戦。夜10時30分のスローオフはちょっとおそい。体育館は魚市場のため、魚の臭いがした。せまい体育館に二千人の観衆が押しかけた。25―20で勝ち、夕食は夜中の12時。この夕食が終わったのが、なんと2時すぎ。ホテルに帰ったのが3時。たいへんな試合だった。

第4戦は3月1日エブリュー市でフランス・ナショナルチーム。この都市は第2次世界大戦で、ドイツ軍と連合軍との激戦の地。市役所の近くの寺院の壁には、当時の激戦を偲ばせる弾のアトが残っていた。初めてデー・ゲーム。広くて明るい体育館。設備もいい。フランス・ナショナルチームはさすがに強い。日本の完敗だった。しかしフランスの良所をよく知っただけでもよかった。ソショー選

ベルサイユ宮殿を見学

抜チームにいたシルベストロ、エチェベリーがうまいプレーをみせてくれた。これでフランスにおける前半戦は終わった。フランス滞在中は河内鋭雄君（協会理事、5月に帰国）、通訳の塚原堯君、テディー君、それに河内夫人にはいろいろとお世話になった。パリ市内観光、ベルサ

チェコ

3月2日オルリー空港から約1時間30分でプラハ空港に着いた。空港で顔なじみのフルコワ女史（党スポーツ中央委員会委員）と会った。前回の遠征のとき、同女史にいろいろお世話になった。通訳にはチェコ人のチハコバ嬢、19歳のかわいい娘さんである。まさに紅1点の存在。それはさておき、プラハに着いて経済的な問題にぶつかった。というのは、3月2日と3日のホテル代は自弁。それに第1次リーグ戦に失格すると10日から16日朝までのホテル代も自弁ということがわかった。羽田出発にチェコの大会組織委員会から公文書が届いていなかったため、これらのことがわからなかった。この費用はすべて渡辺団長のポケット・マネーでまかなわれた。渡辺団長が同行しなかったら、どうなったかわからなかった。3日トーホロビス炭鉱を見学し、ストコフチームと練習マッチ、屋外コートはスケートリンクを急改造したもの。コートの周りには雪があり、かなり寒かった。トレーニング・パンツをはいての試合である。この試合は45—5と大勝した。夜は炭鉱ホールで大歓迎会。ダンスパーティーが盛大だった。4日チェコ・ナショナルチームと練習マッチのあと、午後5時プラハ発の汽車でDグループ開催地のパルドビッチへ向かった。パルドビッチではグランド・ホテルに泊る。

パルドビッチ

6日午前11時30分から1時間トレーニング。開会式は午後5時からパルドビッチ体育館で行なわれた。体育館はホテルから徒歩7分。ルーマニア、ノルウェー、チェコと一緒に泊まる。開会式は簡単で約15分で終わり、17時15分ソ連対ルーマニアで開幕した。（パルドビッチ市はプラハから東方へ約百キロの地点にあり、こじんまりした小さな街）。日本はノルウェーを18—14で破った。約七千人のファンは日本を応援してくれた。スタンドには鷲尾役員、片瀬マネジャー、宮原宏、餅原両選手が陣取り、さかんに声援する。タイムアップのホイッスルだ。館内は割れんばかりの大歓声。選手たちは互いに肩を2たきながら勝利を喜ぶ。竹野が9点、北村が5点、住広が7点、東が1点をあげた。その夜の夕食は実にうまかった。7日の第2戦のソ連戦は、開始直後に竹野が左マブタを負傷して退場した。このため日本はコンビネーションがくずれてソ連に負けた。8日は午後2時からバスで各国選手がクニキッカ山へ行った。（女のお祭り」を見学し、夜8時までダンスパーティー。久しぶりにくつろいだ。9日は午後7時30分からルーマニアと対戦した。12—36で敗れたが、よいゲームができた。試合終了後にグランドホテでル各国合同の夕食会があり。贈り物の交換会が行なわれた。10日午前9時30分バスでプラハへ戻る。11日から15日まで世界選手権の準決勝リーグ。順位決定戦を見学した。この間プラハ選抜、プラハ学生選抜、ロボンチェ選抜、アラブ連合などと試合をやった。チェコ駐在の日本大使館主催の夕食会がプラハ市にある中国飯店で開かれ、選手たちは大喜び。16日プラハ発パリに向かった。

（続く）

ストコフの幼稚園で

連載第9回

ハンドボール球史

——戦後の関東学生リーグ戦——

加盟校が絶えず変動し、そのたびにシステムを変更していた関東学生リーグも昭和24年あたりからようやく落ち着きを見せるようになった。しかし昭和21年秋季に始まった女子部門が昭和23年度限りで解散した。これはその後の国内女子学生界の発展に大きなマイナスとなった。

関東学生リーグ・戦後編③

▼昭和24年春季＝予科リーグが解消し、日体は日体大として復帰。女子リーグは解消。

明大 9－2 法大
早大 6－2 立大
日体大 10－1 立大
法大 13－0 中大
明大 4－2 慶大
早大 4－3 教大
教大 5－4 日体大
慶大 4－0 中大
教大 5－3 慶大
日体大 19－0 中大
法大 2（引分）2 立大
早大 4－2 明大
早大 15－4 法大
明大 7－0 立大
明大 2－1 日体大
法大 6－3 慶大
早大 27－0 中大
教大 5－1 立大
教大 15－0 中大
日体大 4（引分）4 慶大
教大 12－4 法大
明大 22－0 中大
早大 6－2 日体大
慶大 3－1 立大
早大 5－1 慶大
立大 11－2 中大
教大 5－2 明大
日体大 8－4 法大

【順位】①早大7戦全勝（2シーズンぶり・通算7回目）②教大6勝1敗③明大5勝2敗④日体大3勝3敗1分け⑤慶大・法大2勝4敗1分け⑦立大1勝5敗1分け⑧中大7戦全敗

▼昭和24年秋季

明大 3（引分）3 慶大
立大 4－2 早大
日体大 5－0 慶大
明大 6－2 法大
早大 7－2 慶大
日体大 8－0 法大
早大 16－1 中大
法大 4－3 教大
日体大 7－0 立大
明大 14－2 中大
早大 7－4 法大
教大 不戦勝 中大
教大 4－2 慶大
日体大 30－0 中大

30点差は復活後の最高記録。なおリーグ記録は昭15秋日体34－0法大

明大 10－0 立大
法大 不戦勝 中大
日体大 8－2 教大
法大 6－2 立大
慶大 不戦勝 中大
明大 7－4 早大
早大 4－2 日体大
慶大 2（引分）2 立大
明大 4－1 教大
日体大 3－0 明大
立大 不戦勝 中大
教大 5－3 早大
慶大 7－1 法大

【順位】①日体大6勝1敗（7シーズンぶり・通算8回目）②明大5勝1敗1分け③早大・教大4勝3敗⑤法大3勝4敗⑥慶大2勝3敗2分け⑦立大2勝4敗1分け⑧中大7戦7敗

▼昭和25年春季

日体大 6－1 中大
立大 5－1 教大
明大 8－1 中大
立大 7－5 早大
法大 6－4 教大
日体大 4（引分）4 慶大
早大 7－5 法大
明大 4－2 慶大
早大 4－3 慶大
立大 13－3 日体大
明大 2－1 法大
教大 17－1 中大
日体大 2－1 法大
教大 5－2 明大
早大 6－1 日体大
立大 1（引分）1 慶大
法大 17－0 中大

教大 4—2 慶大
立大 3—2 明大
早大 1（引分）1 明大
教大 4—2 日体大
早大 7—2 教大
明大 6—4 日体大
立大 11—5 法大
慶大 8—0 中大

【順位】①立大6勝1分け（初優勝）②早大5勝1敗1分け③明大4勝2敗1分け④教大4勝3敗⑤法大3勝4敗⑥日体大2勝4敗1分け⑦慶大1勝4敗2分け⑧中大7戦7敗

▼昭和25年秋季＝新加盟申請四校によって「関東新制大リーグ」を実施。

立大 不戦勝 中大
早大 6—5 教大
慶大 6—5 明大
日体大 7—5 法大
早大 不戦勝 中大
立大 8—5 慶大
明大 7—5 日体大
教大 9—2 法大
明大 30—1 中大
早大 8—4 慶大
法大 4—2 明大
立大 11—3 日体大
教大 不戦勝 中大
立大 12—5 法大
早大 4—3 明大
日体大 7—3 慶大
法大 不戦勝 中大
立大 7—4 明大
日体大 7—6 早大
教大 8—0 慶大
日体大 不戦勝 中大
教大 6—5 立大
早大 6—3 法大
教大 11—1 日体大
慶大 21—1 中大
教大 6—4 明大
法大 12—2 慶大
早大 6—2 立大

▽優勝決定戦

早大 5（1—0、1—2、延長 2—0、1—1）3 教大

【順位】①早大6勝1敗（3シーズンぶり・通算8回目）②教大6勝1敗③立大5勝2敗④日体大4勝3敗⑤法大3勝4敗⑥慶大・明大2勝5敗⑧中大7戦7敗

▽次季二部校決定戦（敗者が二部）

慶大 1—0 明大

▽関東新制大学リーグ（四校参加）

東大 5—1 山梨大分校
山梨大 4—1 芝浦工大
東大 3—1 芝浦工大
山梨大 2—0 山梨大分校
山梨大 4—0 東大
山梨大分校 3—0 芝浦工大

（順位）①山梨大3戦全勝（初優勝）②東大2勝1敗③山梨大分校1勝2敗④芝浦工大3戦3敗

40年4月に中国遠征（男子）

中国との交流本格化

日中文化交流協会の村岡久平事務局次長は9月上旬、東京・代々木の岸体育館で日本ハンドボール協会の高嶋理事長と会談した。席上村岡氏から「中国体育総会（日本の体協に相当する）が東京オリンピック終了後に日本のハンドボールと交流試合をやりたいと日中文化交流協会に連絡してきた」と説明した。中国体育総会の計画によると、明年4月ごろに日本から男女両チーム計30人（役員をふくめて）を3週間の日程で中国へ招待し、10月か11月に中国の男女両チームが同じく3週間の日程で日本遠に遠征したいというもの。村岡氏の話によると羽田—香港間の航空運賃は日本持ちで、中国にはいると経費はすべて中国側が負担、また中国チームが日本遠征のときは香港—羽田間の航空運賃を中国側が負担、日本国内での経費は日本協会負担とのこと。

このため高嶋理事長は中国体育総会、日中文化交流協会あてに「中国側の要望を受け入れる用意がある」ことを公文書にして手渡した。中国側からの返事は9月30日現在まだ届いていない。なお中国チームは国際ハンドボール連盟に加盟していない。もしこの計画が実現するとなれば、高嶋理事長が国際ハンドボール連盟にたいして承諾を求めることになっている。

▽高嶋理事長の話

日中文化交流協会から正式に言ってきた。村岡氏からいろいろ聞き、すぐ公文書を出した。しかし中国チームはかなり強い。しかも隣国なので大いに交流試合をやってアジア地区のレベルを引き上げたい。毎年やるか、一年置きにするかは、まだ決まっていない。とにかく非常にプラスになることだから大賛成だ。

（注）その後の連絡で40年4月に日本男子チームが中国へ遠征することになった。女子は中止。また日ソ交流が実現し、40年6〜7月ごは日本男女両チームがソ連に遠征する。くわしいことは次号（19号）に掲載する。

学生界春季総成績

▼第4回西日本学生選手権(4月14日〜17日・京都市立体育館)

▽一回戦

大経大 27—17 大阪学大
立命大 24—19 大阪大

▽二回戦

関大 15—10 京大
甲南大 15—9 甲南大
大工大 20—17 大府大
山口大 22—11 大歯大
同大 43—7 大市大
広島大 20—19 岡山大
広島商大 18—13 大経大
関学 19—12 立命大

▽準々決勝

関大 21—12 広島商大
関学 29—5 甲南大
同大 26—11 大工大
山口大 27—13 広島大

▽準決勝

同大 17(10—6 7—6)12 関大
関学 30(16—4 14—7)11 山口大

▽三位決定戦

関大 31(16—6 15—6)12 山口大

▽決勝戦

関学 19(11—5 8—11)16 同大

関学の優勝は2年ぶり通算3回目

▼関東学生リーグ(4月29日—5月17日明大八幡山)

▽男子一部

中大 10—9 芝浦工大
立大 20—19 明大
教大 21—20 法大
日体大 24—20 早大
法大 21—18 日体大
教大 17—16 早大
芝浦工大 31—11 明大
立大 24—10 中大
立大 27—10 早大
芝浦工大 19—14 法大
中大 12—8 日体大
教大 21—16 明大
日体大 14—12 明大
法大 16—14 立大
教大 17—12 中大
芝浦工大 19—14 早大
法大 15—12 中大
早大 16—17 明大
立大 17—11 教大
芝浦工大 22—8 日体大
芝浦工大 20—16 教大
立大 18—17 日体大
早大 17—12 中大
法大 27—12 明大
明大 15—14 中大
法大 17—13 早大
教大 20—13 日体大
芝浦工大 18—10 立大

(優勝は芝浦工大6勝1敗。2連勝、通算13回目2位以下の順位と成績は前号既報)

▽女子(2回戦制)

日体大 21—7 日女体短大
日体大 22—5 日女体短大
東女体大 10—6 日女体短大
東女体大 11—8 日女体短大
日体大 12—7 東女体短大
日体大 15—4 東女体短大

▽一・二部入れ替え戦

明大(一部) 13—8 慶大(二部)

明大は一部残留。なお二部の優勝は慶大、三部の優勝は日大。

▼関西学生リーグ(5月2日—5月25日・大阪府立・京都市立両体育館)

京大 17—13 立命大
同大 23—11 大経大
関大 34—8 甲南大
関学 36—11 神大
同大 33—7 神大
関学 27—9 大経大
関大 24—15 京大
甲南大 22—15 立命大
同大 28—21 立命大
甲南大 18—13 神大
京大 16—5 大経大
関学 13—11 関大
甲南大 18—17 大経大
京大 24—13 神大
関学 26—21 立命大
同大 28—13 関大
関学 12—9 京大
同大 22—14 甲南大
立命大 23—13 神大
関大 34—22 大経大
関大 36—8 神大
関学 33—9 甲南大
同大 25—15 京大
立命大 19—18 大経大
大経大 11—7 神大
関大 27—15 立命大
京大 14—13 甲南大
同大 13—12 関学

(順位)①同大7戦全勝(2連勝・通算7回目)②関学6勝1敗③関大5勝2敗④甲南大・立命大・京大3勝4敗⑦大経大1勝6敗⑧神大7敗

(二部順位)①阪大5戦全勝②大阪学大・大工大・大府大3勝2敗⑤大市大1勝4敗⑥大歯大5敗

▽一、二部入れ替え戦

阪大(二部) 25—24 神大(一部)

この結果阪大が一部に昇格。

▼東海学生リーグ(5月2日、3日愛知学芸大)

中京大 33—9 名大
岐阜大 31—8 三重大
中京大 14—9 名工大
岐阜大 22—19 名大
名工大 21—10 三重大
岐阜大 20—11 名工大
名大 17—8 三重大
中京大 21—13 岐阜大
名大 16—10 名工大
中京大 25—9 三重大

(順位)①中京大4戦全勝②岐阜大3勝1敗③名大2勝2敗④名工大1勝3敗⑤三重大4敗

(二部順位)①愛学大4戦全勝②南山大3勝1敗③滋賀大2勝2敗④三重県立大1勝3敗⑤静岡大4敗

▼愛知学生リーグ(5月30・31日名古屋工大)

中京大 25—10 愛学大
名大 21—15 名工太
南山大 20—8 愛大
中京大 36—7 名工大
名大 17—9 愛大
南山大 18—15 愛学大
中京大 35—17 名大
名工大 16—11 南山大
愛学大 18—4 愛大
中京大 18—6 愛大
名工大 18—12 愛学大
名大 21—10 南山大
中京大 30—10 南山大
名大 21—13 愛学大
名工大 14—7 愛大

(順位)①中京大5戦全勝(5年連続5回目)②名大4勝1敗③名工大3勝2敗④南山大2勝3敗⑤愛学大1勝4敗⑥愛知大(今季新加盟)5敗

国立大会は京大

国立八大学選手権は7月19日から3日間、京大農学部グラウンドで行なわれ、京大が優勝した。二位以下の順位は東大、神大、阪大、九州大、東北大、名大、北大となった。

地方球界の歩み

南から……北から……(5)

三重県(2)

三重協会設立までの経過とその後の人事面での変動は先号に述べたが、競技面でもその歩みはシーズンごとに発展の一途をたどった。最初の実績は昭和24年の西日本高校選手権で高田高が3位に入賞したことと、昭和25年から始まった全国高校の第一回大会から代表校を送り込んでいることだ。県内に「やれる」という大きな自信を植えつけたのは全国大会での実績よりも、むしろ28年の中部日本選手権(編集部注・昭和26年から7年間存続した大会で、地方選手権としては有数の大規模だった)高田クラブが4位となったことと、29年の西日本高校選手権で四日市高女子が3位になったことであろう。両大会ともレベルの高い強チームがそろっており、それを押えての入賞は県内レベルの向上をはっきり示した。その自信は31年の中部日本選手権で四日市高女子が優勝を獲得するという成果へつながった。

さらに、四日市高女子はこの年の第3回全日本室内準決勝で全兵庫と延長の熱戦を演じ、惜敗したものの3位となり、翌年の第4回全日本室内でも3位となった。このときは準決勝で当時のぼり坂の愛知紡と対戦、互角の勝負を演じて注目され、敗れたとはいえ連続3位の活躍は県球史の「最初の10年」の中でもひときわ光るものであろう。

全国大会の上位入賞という県球界の目標はこうして四日市女子によって、創立後十年に満たぬうちに成しとげられたわけである。

このころから県内チームも年々増え、35年には本田技研、東芝三重、日本合成ゴムと実業団が相次いで結成された。県内チーム拡充の実が上がっているのは、三重で育った選手のハンドボールへの強い愛着心にほかならない。彼らは東西の名門校や学生リーグで育った「球界のエリート」ではない。それにもかかわらず、自己の進退をかけてまでクラブをつくり、実業団をつくり上げたのである。

37年誕生、その年の全日本総合で準決勝にまで勝ち進んで関係者を驚嘆させた田村紡誕生の裏には、一中学校の教官が精魂を打ち込んで無敵を誇る中学チームを育て上げた功績が秘められている。(編集部注=田村紡誕生の母体となったのは三重県成章中学で、36年ごろの同校は文字どおり無敵の〝超中学〟チームだった)。やがて近い将来、三重で国体が開かれることになろうが、そのときこそ三重チームが宿願の〝全国優勝〟を勝ち取るときであろう。

国体の開催と全国優勝こそは三重ハンドボールマンの希望なのである。今シーズンは、シーズンなかばにして田村紡の東海選手権獲得、本田技研の日仏戦参加話題となった。

希望の灯は一段と強い輝きを見せて、明日への道を照らし出しているのである(了)

静岡県(1)

静岡県にハンドボールが紹介れたのは昭和13年ごろといわれている。これは茨城、大阪、兵庫などとともに地方球界としては、国内で最も古い部類に属するものだ。

他県と同じように、静岡への紹介も学校スポーツということだったが、スポーツ好きな県人の間にはまたたく間に普及された昭和14年2月には静岡県中部地区少年送球大会が静岡師範で開かれ、引続き同東部大会が富士で、同西部大会が掛川で開かれるという発展ぶりだった。翌年岩野次郎氏が県体育主事として転勤し、ハンドボールを奨励されたこともあって、地区大会は一年にして「県大会」へと規模を伸ばした。その第一回大会が昭和15年6月静岡中学で、その年の明治神宮体育大会の予選をも兼ねて盛大に行なわれた。静岡師範、静岡中、掛川中、富士中、沼津中、庵原中など各校の激しい対抗意識の中で争われたが、男子は静専ク(静岡師範専攻科)、女子は静岡高女が晴れの神宮大会代表に決まった。

当時はゴールポストに竹ザオが使われた。選手といっても他競技からの転向者や、中には臨時雇い(?)の選手などもいた。静専クはサッカー、バレーボール、バスケットボール、陸上競技などの選手が中心だったそれにもかかわらず、神宮大会の一回戦で、早大を7—4で破る金星をあげた。(本誌第11号27頁参照)

余談になるが、静岡のチームはいまでも大物食いという定評だ。昭和31年だったと思うが、清水商高が静岡に立ち寄る関東の大学勢を次々と破った。その年の全日本では日体大まで食ってしまったことがある。その伝統は戦前にこの静専クによってすでに芽を生やしていたといってもよさそうだ。

こうして戦前はなやかな実績を持った県球界は、戦後の立ち直りも早く、昭和21年6月、最初の県選手権が行なわれ、沼津中が優勝した。沼津中はこのあとに開かれた第一回国体予選で愛知一中を破り、東海代表として国体に出場、県球界健在を全国に誇示した。沼津中は沼津東高に改制され、昭和25年ごろまで常勝校として君臨。打倒沼津を目ざして富士高、清水商などがしだいに台頭してきた。一方女子では静岡城北高が初期から強力チームを編成して県内を制し、やがて全国制覇をなしとげた。戦後の発展への道のりは次号にくわしく述べることにする(つづく)

世界に誇るこのマーク

○ 東京都協会 告知板

理事会議事録

日　時　昭和39年7月18日(土)
場　所　大崎電気工業株式会社
出席者　渡辺　外山　山岡(二)　鶯尾　安藤(純)　佐野　岡村　松田　宮田　高体連から永井氏

一　副会長推薦の件
副会長に古賀和佐雄氏(千代田印刷機製造株式会社社長)を満場一致で推薦した。近く渡辺会長から同氏に就任を要請する。

二　理事増員の件
各理事から理事候補者をあげて選考した結果、十三人が理事に推薦された。

三　常任理事新設の件
新理事13人が正式に決まったら、常任理事制を設ける。この案は満場一致で可決された。

四　新規登録チームの件
ことしの登録で全日体大は登録が遅れたため、日体大クラブとして新規登録で加盟申請してきた。現行の登録規定によると(昨年どのチームにも登録していない選手が7人以上含まれていれば登録できる。つまり昨年のチームの選手は何人いてもいい)ことになっている。これでは新規登録の意味がないので、新規登録されている選手については(昨年登録されている選手を4人以内、または3人以内に押えるなどの規定を設けて行くのが望ましい)との結論に達した。これは近く要望事項として日本協会に文書で要望することになった。

五　日本協会に規約改正を要望する件
渡辺会長は日本協会評議員の資格において規約改正を要望する。その要点は会長、副会長、理事の選任は評議員会で行なうことになっているが、常務理事も評議員会で選任するというもの。現行では常務理事、理事長は評議員会が選任した理事の互選のよるとになっている。

六　日本協会に質問書提出の件
全日本総合選手権大会の推薦制度、桃山学院大の関西学連復帰などの重要事項について、渡辺会長が評議員の資格で日本協会に質問書を提出し、回答を求めることを了承した。

常任理事会および理事会議事録

日　時　昭和39年9月14日(月)
場　所　大崎電気工業株式会社
出席者　渡辺　外山　吉田　鶯尾　宮田　安藤(純)　松田　中沢　黒川　生田　近藤　国原　鶴岡　中野　岡前　渡辺

一　都ハ協第16号で報告した新理事11人の指名は渡辺会長から行なわれた。このほか勝繁夫(立大)大迫末司(杉並区高円寺中)の2人はまだ承諾書が届いていない。

二　新理事13人の増員のため理事の上に常任理事制を設置。旧理事はいずれも常任理事に選出された。

三　第2回東京都選手権大会は11月21日から3日間、東京体育館、駒沢屋内球技場で行なう。

四　第11回全日本総合室内選手権大会は12月16日から20日まで東京体育館、駒沢体育館で開かれる。日本協会はことしからフリー参加を取りやめ、男女とも16チームを推薦して行なう。16チームのうち男子の大崎電気、全立大、関学、日体大クラブの4チーム、女子の大崎電気、愛知紡、大洋デパート、レナウン工業東京の4チームはすでに推薦チームに決定、他の12チームについて日本協会から「都道府県協会からチームを推薦するよう」依頼があった。当協会から男子の芝浦工大、中大、早大、明大、教大、法大、日体大、千代田印刷機、法友クラブ、滴水会、明星高の11チーム、女子の日体大、日女体短大、東京女体大の三チームを選出し、日本協会に推薦することを決めた。

五　この大会は当協会の主管となるので、大会運営について協議した。この結果、有料入場とすることを決めた。

東京都協会役員名簿

▽会　長
渡辺和美　(大崎電気工業社長)

▽副会長
鈴木達雄　(レナウン工業社長)
山岡憲一　(東京重機工業社長)
古賀和佐雄　(千代田印刷機社長)

▽理事長
外山准二　(日本通信建設)

▽副理事長
山岡二郎　(戸塚一中校長)
吉田正次郎　(明大ＯＢ)

▽常任理事
鶯尾武治　(共同通信社)
安藤重明　(都立城南高)
安藤純光　(法大体育研究室)
中沢重夫　(芝浦工大学)
岡村昭二　(都立玉川高)
佐野和夫　(都立神代高)
宮田豊太郎(都立北園高校長)
松田利秋　(品川区立荏原一中)

▽理　事
生田　太　(大崎電気工業)
黒川正雄　(レナウン工業)
古賀健一郎　(千代田印刷機)
国原英子　(中野区中央中学)
鶴岡光子　(北区豊島中学)
中野偉夫　(武蔵工大付属高校)
平地英正　(武蔵野市立第三中学)
渡辺慶寿　(都立桜水商高)
岡前義春　(都立五商高)
永井勝雄　(都立両国高)
津島達郎　(都立世田谷工高付属中)
大迫末司　(杉並区高円寺中学)
勝　繁夫　(立教大学ＯＢ)

地方だより

横浜市が初優勝

第15回五大都市体育大会は7月11、12日大阪市で開かれ、ハンドボールは淀商高で行なわれた。

決勝は横浜と大阪の争いとなったが、横浜が前半で勝負を決めて初優勝した

▽一回戦

横浜市 32―10 名古屋市

神戸市 21―16 京都市

▽敗者復活戦

京都市 25―15 名古屋市

▽準決勝

横浜市 16―11 神戸市

大阪市 26―20 京都市

▽決勝

横浜市 29 12―4 17―7 11 大阪市

田村紡宿願果たす

第16回東海選手権は5月2、3日清水市に男女各4チーム（予選勝者）が参加して開かれた。男子は全愛知が清商ク（静岡）の3連勝をはばみ、3年ぶりで愛知に選手権を持ち帰り、女子では田村紡（三重）が宿願の〝打倒愛知紡〟を果して初優勝を飾った。

▽男子一回戦

本田技研（三重） 30 17―9 13―8 17 常盤工業（岐阜）

全愛知 27 11―7 16―13 20 清商ク（静岡）

▽決勝

全愛知 27 14―7 13―9 16 本田技研

▽女子リーグ

愛知紡（愛知） 16―13 揖斐川電工（岐阜）

田村紡（三重） 13―3 城北ク（静岡）

揖斐川電工 7―6 城北ク

田村紡 16―5 揖斐川電工

愛知紡 10―3 城北ク

田村紡 8 5―3 3―4 7 愛知紡

（順位）①田村紡3勝②愛知紡③揖斐川電工④城北ク

明星、栃木女が優勝

第10回関東高校選手権大会は7月23日から4日間、桐生市に男子30、女子32校が参加して行なわれた。男女は明星（東京）が2連勝4回目、女子は栃木女が3連勝、5回目の優勝を飾った。

▽男子準決勝

明星（東京） 26―4 浦和市立（埼玉）

麻生（茨城） 16―9 富岡（群馬）

土浦工（茨城） 21―8 坂戸（埼玉）

神代（東京） 17―11 塩山（山梨）

▽同準決勝

明星 19 8―4 11―5 9 麻生

土浦工 20 10―7 10―7 14 神代

▽同決勝

明星 23 10―5 13―6 11 土浦工

▽三位決定戦

神代 18―12 麻生

▽女子準々決勝

栃木女 18―5 甲府二（山梨）

桜水商（東京） 17―2 浦和市立（埼玉）

石岡二（茨城） 13―10 深谷女（埼玉）

水海道二（茨城） 16―2 国学大付（栃木）

▽同準決勝

栃木女 11 7―4 4―0 4 桜水商

水海道二 14 9―7 5―4 11 石岡二

▽同決勝

栃木女 5 3―1 2―3 4 水海道二

▽同三位決定戦

桜水商 5―3 石岡二

関学、甲南など勝つ

東西大学定期戦は6月6日の早関戦を皮切りに行なわれた。

▽第19回早大―関学（6月6日・早大記念会堂）

関学 30 13―4 17―6 10 早大

対戦成績は関学の13勝6敗

▽第14回京大―東大（6月7日京都市立体育館）

京大 27 12―2 15―7 9 東大

対戦成績は京大の12勝2敗

▽第17回立命大―明大（6月7日・京都市立体育館）

立命館大 23 12―8 11―11 19 明大

対戦成績は明大の14勝3敗

▽第17回京大―慶大（6月28日・京都市立体育館）

京大 24 11―10 13―9 19 慶大

対戦成績不明

▽第11回甲南大―慶大（6月29日・大阪市中央体育館）

甲南大 20 9―8 11―9 17 慶大

対戦成績は慶大9勝2敗

× × ×

編集後記

○…フランス（ステラ・スポーツ）チームが各地で10試合やり、6勝4敗の成績を残した。このうち4敗は全芝浦工大、千代田印刷機、全同志社大、大崎電気によるもの。とくにチーム結成零歳の千代田印刷機が堂々と勝利をおさめたのはほめられていい。千代田印刷機チームの会社の首脳部の人も喜んだに違いない。とにかくおめでとう。女子チームの来日が突然中止になり、開催地の方々にいろいろとご迷惑をかけたが、気持ちよく男子チームを迎えてくれたことについて心から感謝します。

○…オリンピックが終わると、日本協会はいそがしくなるという。明年は多く（？）の国際試合が計画されている。日本中国交流試合、西ドイツの女子世界選手権大会、スペインのユニバシアード大会など…。とくに隣国の中国との交流は大いに楽しみだ。中国はかなり強いときいている。韓国を加えて3カ国はハンドボール愛好者にとってはうれしいニュースである。

○…9月ブダペストで開かれた国際ハンドボール連盟総会に式場会長が出席した。次号の19号には式場会長の報告を掲載したいと思っています。またできるだけヨーロッパの近況をみなさんにお知らせしようと心がけています。

○…12月の全日本総合室内選手権大会は男女とも16チームの推薦チームによって開かれることになった。日本最高のゲームを期待する。第3日―第5日まではベスト4によるリーグ戦は熱戦を続けることでしょう。日本協会のこの英断に拍手を送ります。（ふぐ）